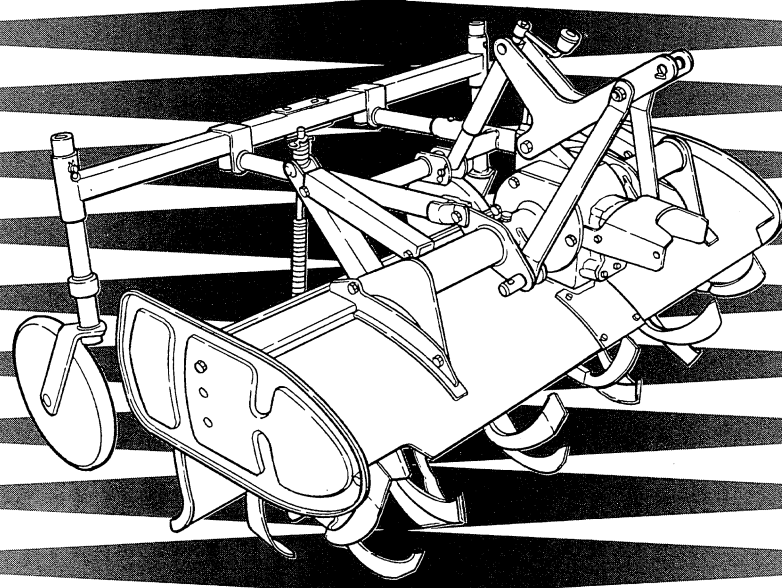
ホンダ センタドライブロータリ

R1400C

取扱説明書



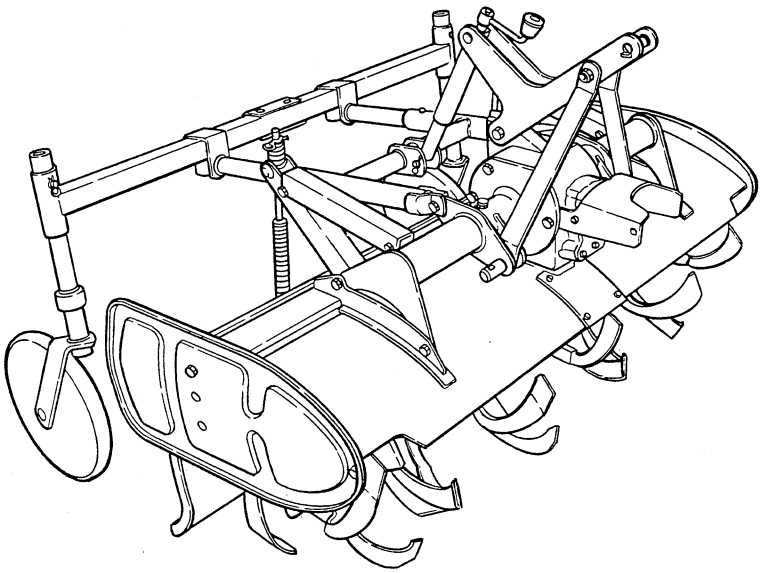
お買いあげありがとうございました。ご使用になる前に
必ずこの取扱説明書をお読みください。

お買いあげありがとう
ございました。

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、**お買いあげいただいた販売店**または整備手帳巻末のホンダ汎用営業所にお気軽にお申しつけください。

はじめに

このたびはホンダディーゼルトラクタ用センタドライブロータリR1400Cをお買上げいただきましてまことにありがとうございました。
この取扱説明書は、商品の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。
ロータリを操作する前に、本書とディーゼルトラクタの取扱説明書をよくお読みいただき十分理解してからご使用ください。
取扱説明書はわからない事があったときに読むことができるように大切に保管し、日常の手引きとしてご活用ください。



安全に作業していただくため、さらに正しい取扱いをしていただくために取扱説明書で(注意)マークのついた項目がその都度記載されております。必ずお守りください。

更に、安全に関するポイントを記載した「安全のしおり」を別冊にて添付しておりますのでよくお読みいただいて、必ず守ってください。

なおこの取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。ご了承ください。

目　　次

安全にお使いいただくために これだけはぜひ守りましょう …… 3

各部の名称と取り扱いをおぼえましょう …… 5

1.尾輪調節ハンドル(尾輪付き仕様) …… 5
2.リヤカバー …… 6
3.サイドカバー …… 6
4.尾輪ビーム …… 6
5.ロータリスタンド …… 7
6.ロアリンク …… 8
7.特3Pブラケット …… 9

ロータリの取付け、取外し …… 10

取付けかた …… 10
取付け後の作動確認 …… 19
取外しかた …… 21

運転する前に点検しましょう …… 23

ロータリの固定のしかた …… 23
ロータリ爪、爪軸の点検 …… 24
各部の締付け点検 …… 24
耕深センサカプラ、ハーネス点検(HiS仕様のみ) …… 25

耕うん作業 …… 26

圃場での注意 …… 26
各部の取扱いと調整のしかた …… 27
1.下降速度調整ノブ …… 27
2.リヤカバー …… 28
3.サイドカバー …… 28
4.尾輪 …… 29
5.ロータリ爪 …… 30
耕うん順序 …… 33
耕うん方法 …… 34

やさしい点検、整備 …… 40

定期点検表 …… 40
センタケースオイルの点検、交換 …… 41
各部の給油およびグリス塗布 …… 43
各部の清掃 …… 44

故障のときは …… 45

レベラの使い方(レベラ仕様) …… 46

主要諸元 …… 48

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう

ロータリの取り扱いは正しく。ちょっとした油断がもとで、思わぬ事故を招くことがあります。安全で、能率的なロータリ作業を行うため次のことを必ずお守りください。
別冊の「安全のしおり」を必ずお読みください。

●安全のために知っておきたいこと

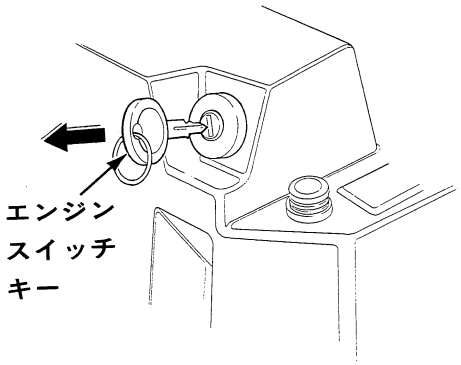
☆運転を始める前に本機の取扱説明書を読み、正しい取り扱い方法を十分御理解のうえ自分で操作してください。

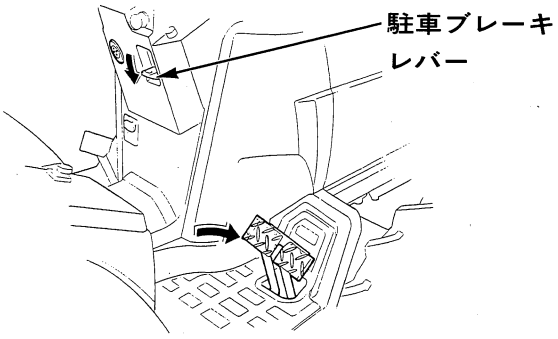
☆人を乗せたり、近寄らせないでください。

☆日常点検、整備を忘れずに行ってください。

☆作業を行う前に圃場の石、空かん等の障害物を除去してください。

☆各部の点検整備を行うときは、エンジンを止め、キーを外して、ブレーキペダルを踏み駐車ブレーキレバーを押し下げて駐車ブレーキをロックしてから行ってください。



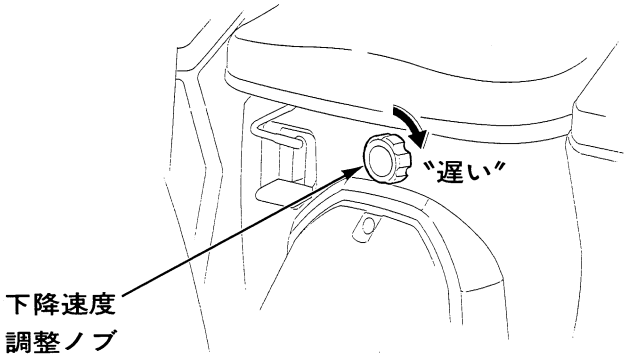


●耕うん爪の点検、清掃、交換のときは

☆点検は平坦な場所で行ってください。

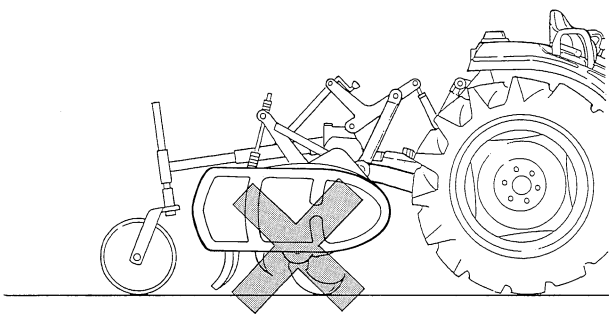
☆エンジンを止めキーを外して、駐車ブレーキをロックしてから行ってください。

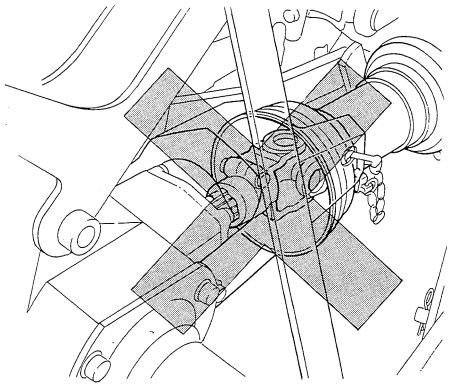
☆シート下の下降速度調整ノブを〝遅い〟(右方向)に止まるまで回して油圧をロックしロータリを固定してください。



●作業中の注意

☆回転部分には絶対に手や足を近づけないでください。





☆ロータリの上に人や物を乗せないでください。又運転中に人や動物を絶対に近づけないでください。

☆ロータリの昇降、後進、および旋回のときには周囲の安全に十分注意してください。

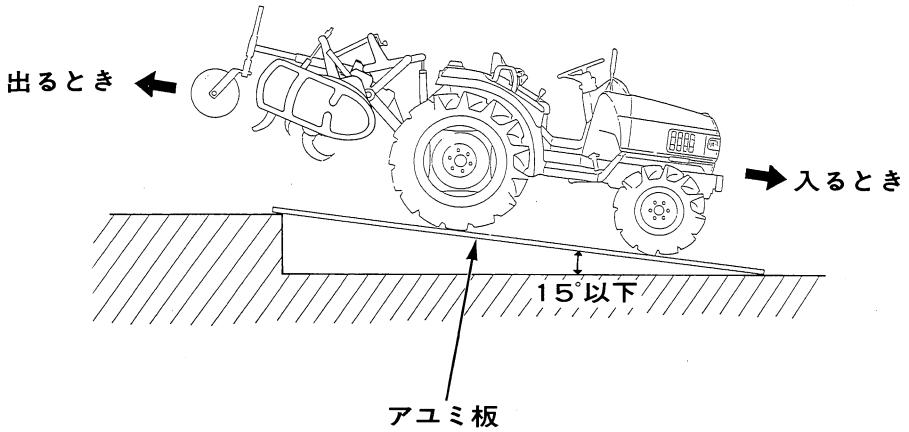
☆信地旋回(片ブレーキ旋回)をする時は必ずロータリを上げてください。

☆段差の大きい作業場への出入りは4WD(4駆)にして必ず丈夫なアユミ板を使用して低速で行ってください。

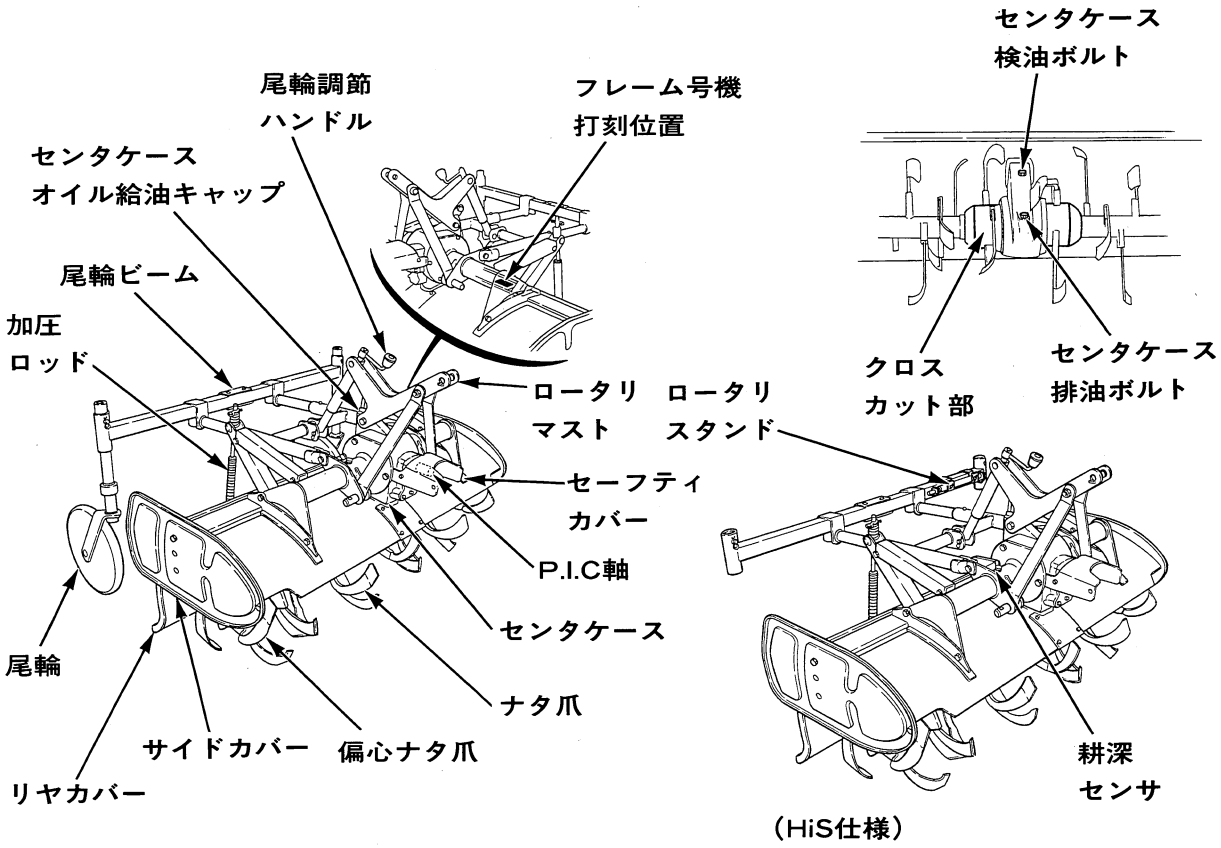
☆作業に合った爪軸回転と車速を選んでください。

万一、硬い圃場等で作業中に本機が飛出した場合は、すぐにクラッチを切り、ブレーキを踏んでより低い車速にしてください。

・耕うん作業は4WD(4駆)をご使用ください。

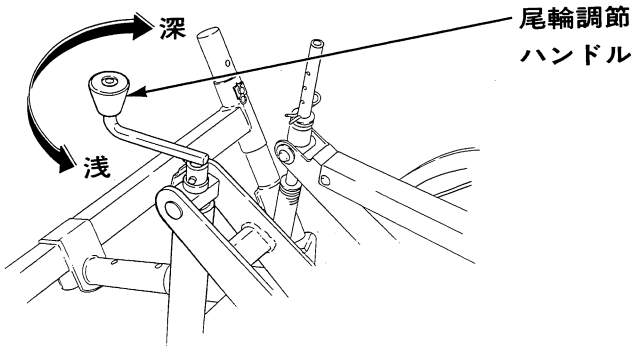


各部の名称と取り扱いをおぼえましょう



1. 尾輪調節ハンドル(尾輪付き仕様)

尾輪調節ハンドルを回わすことにより耕深が調整できます。

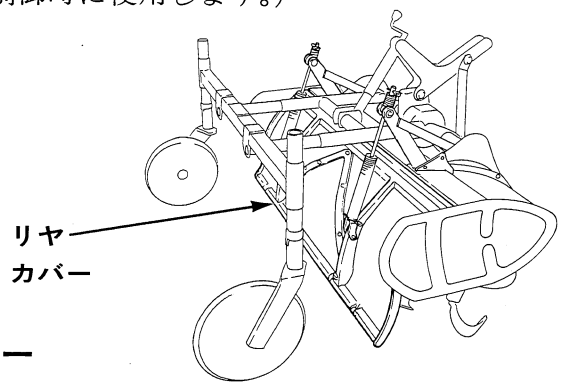


注意　耕深調整は、本機を停止し、P.T.O軸変速レバーを〝N〟の位置にして行ってください。

2．リヤカバー

後部への土や、石はね防止と整地のために付いています。

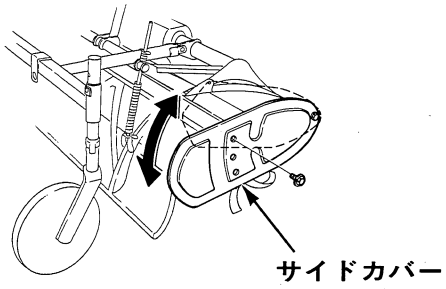
（HiS仕様は耕深制御時に使用します。）



3．サイドカバー

横方向への土の逃げを防止します。

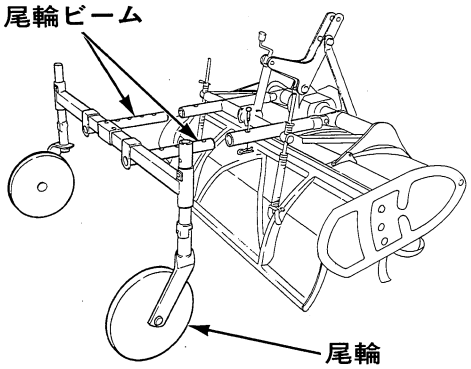
作業する圃場および深さに応じてカバーの位置を調整してください。



4．尾輪ビーム

作業に応じて尾輪の位置を調整します。前後４段階に調整することができます。

> 注意　尾輪の位置を調整するときは、本機にロータリを取付けた状態で油圧リフトレバーでロータリを上昇させ下降速度調整ノブを右にいっぱい回し油圧をロックして行ってください。



5．ロータリスタンド

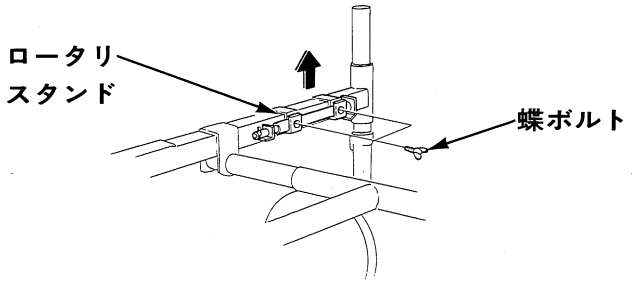
（尾輪のない仕様にロータリスタンドが設定されています。）

ロータリスタンドはロータリの取付け、取外しの時に使用します。

次の手順でロータリスタンドをセットしてください。

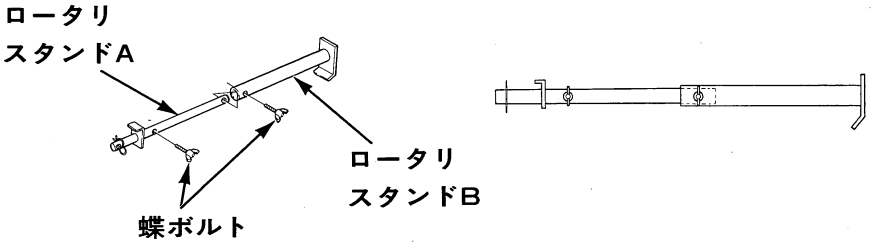
1）尾輪ビームを引き出して後方から２～４番目の穴にセットします。

2）蝶ボルト２本を外してロータリスタンドを矢印の方向へ持ち上げて外してください。



3）ロータリスタンドAとロータリスタンドBの穴を合わせ、2）で外した蝶ボルト２本を取付けます。

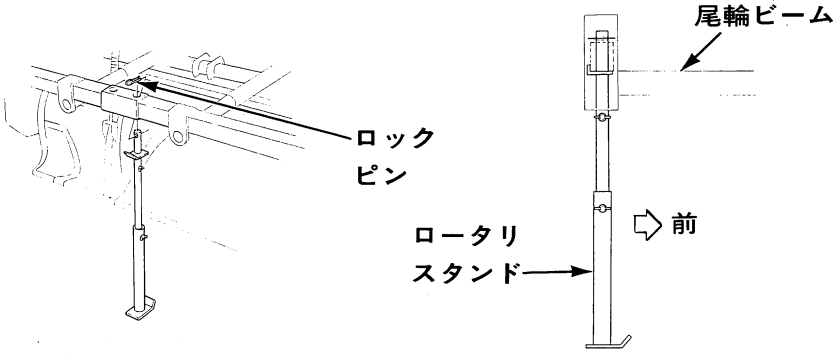
A、Bのロータリスタンドの取付け方向は図の様にしてください。



4）尾輪調節ハンドルを回してロータリスタンドが入る高さまで尾輪ビームを上げてください。

ロータリスタンドを尾輪ビームの穴に通し（穴は左右どちらでも可）、ロックピンを取付けます。

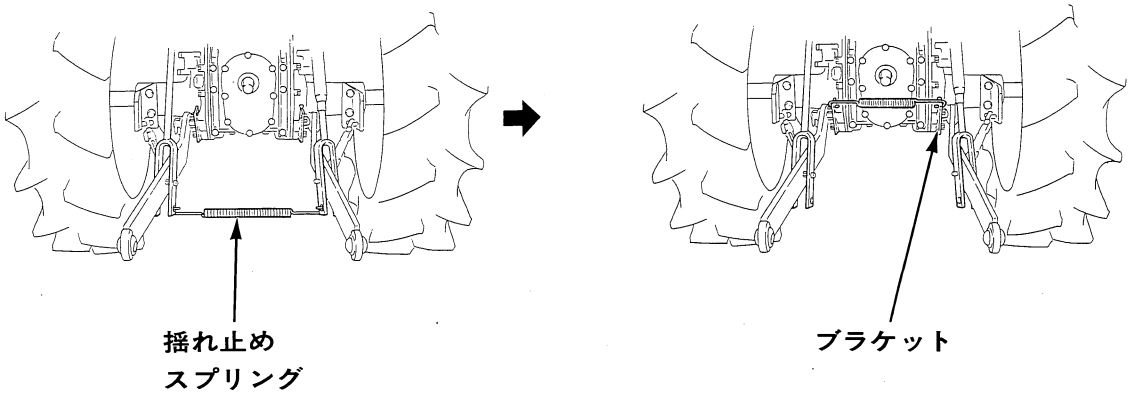
ロータリスタンドの取付け方向は図の様にしてください。



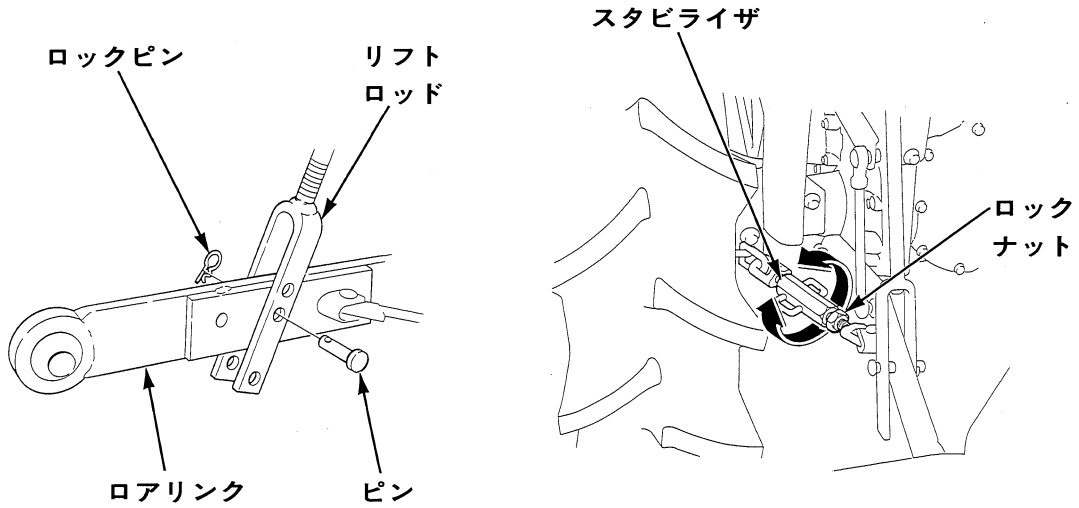
5) ロータリスタンドの収納は、逆の手順で行ってください。
ロータリスタンドを尾輪ビームに取付けるときは、蝶ボルトがゆるまないように、しっかり締め付けてください。

6．ロアリンク

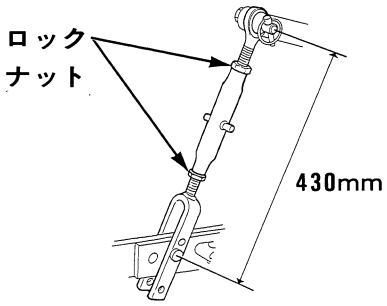
1. ロアリンクの揺れ止めスプリングを外し、スプリングをロアリンクのブラケットに取付けます。

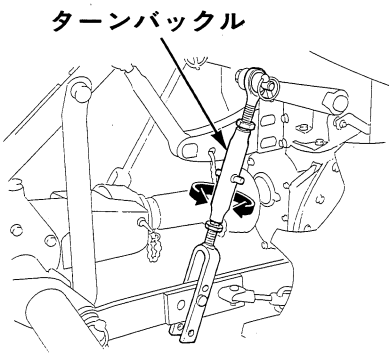


2. リフトロッドの中央の穴とロアリンクの前の穴を合わせ、ピンとロックピンで取付けます。ロックナットをゆるめスタビライザをゆるめます。



3.右側リフトロッドのロックナットを弛め、ターンバックルを回して右側リフトロッドの長さを430mmに調整します。調整後ロックナットを確実に締付けてください。（機械式ポジションコントロール仕様のみ）

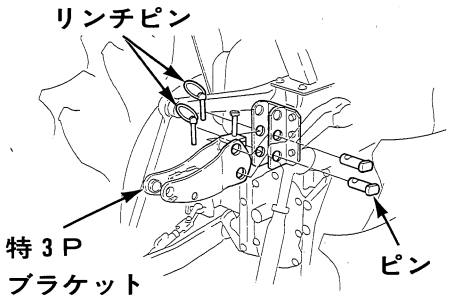


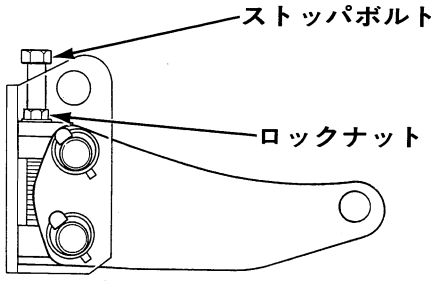


7．特３Ｐブラケット

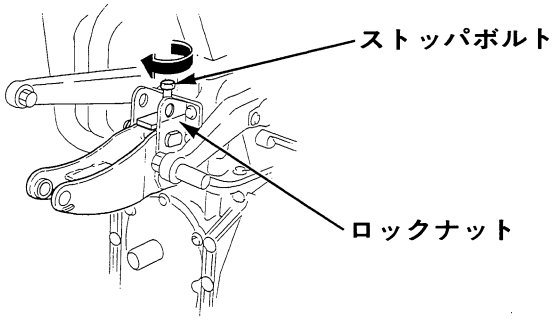
1.特３Ｐブラケットの上の穴をトラクタ側取付け部中央の穴に合わせピンとリンチピンで取付け、次に特３Ｐブラケットの下の穴を同様にピンとリンチピンで取付けます。

ピンが入りにくい場合は、ロックナット、ストッパボルトをゆるめて特３Ｐブラケットを上下に動かしながらピンを差しこんでください。





2.ストッパボルトを締付け、ロックナットを締めて特３Ｐブラケットを固定してください。

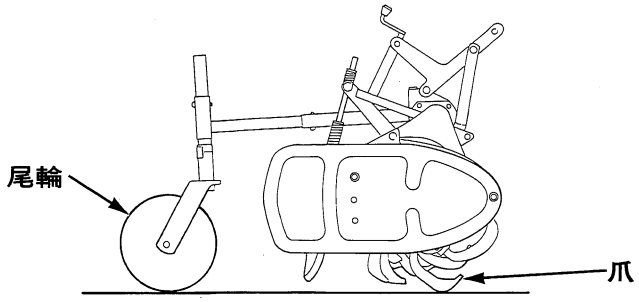


ロータリの取付け、取外し

取付け前にロータリが次の状態であることを確認してください。

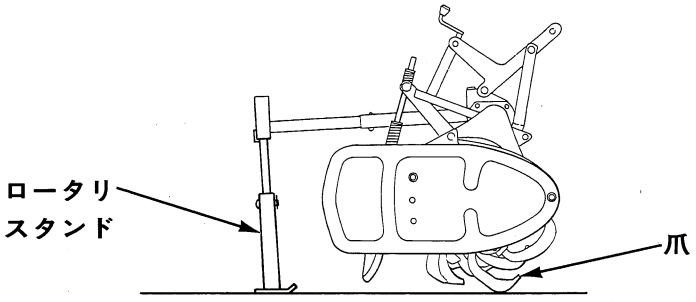
●尾輪付の仕様

尾輪と爪の両方が接地していること。



●尾輪のない仕様

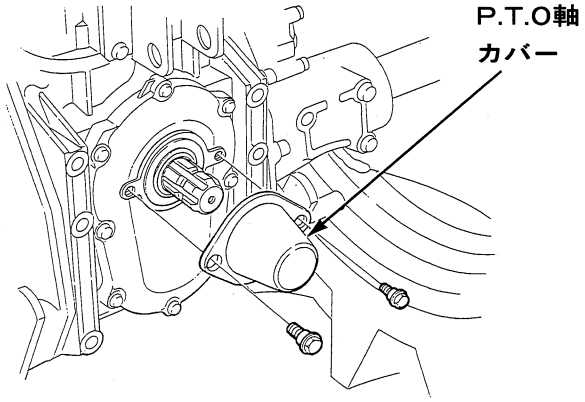
ロータリスタンドと爪の両方が接地していること。

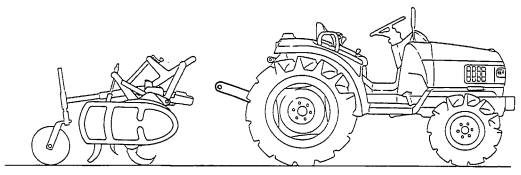


取付けかた

1．ロータリおよびトラクタを平坦な場所に置き、エンジンを停止してP.T.O軸カバーを取外してください。トラクタをロータリ取付け部近くまで後進させて、駐車ブレーキをかけてください。

P.T.O変速レバーが〝N〞の位置になっていることを確認した後エンジンを停止してください。

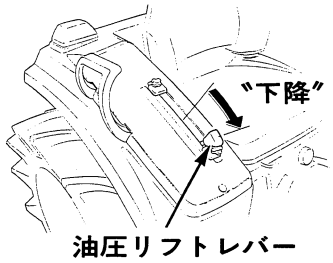


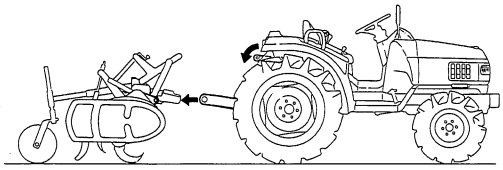


2．次の手順でロアリンクをロータリのロアリンクピンの高さまで下げてください。

●機械式ポジションコントロール仕様

1)油圧リフトレバーを〝下降〟の位置にしてロアリンクを下げてください。
（ロアリンクが下がらない場合は手で下げてください。また重い場合は下降速度調整ノブを〝速い〟の方向へ回してください。）



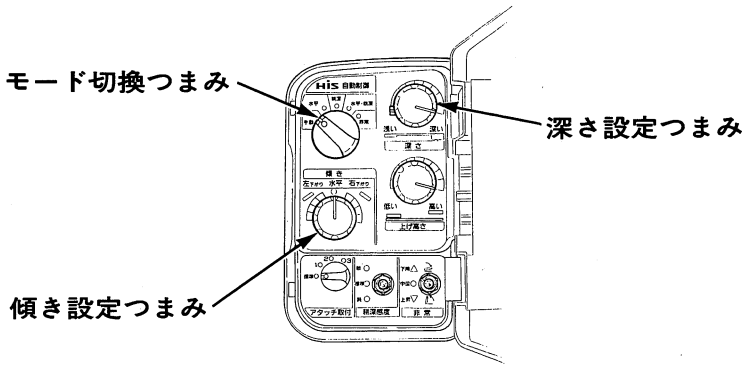


●HiS仕様

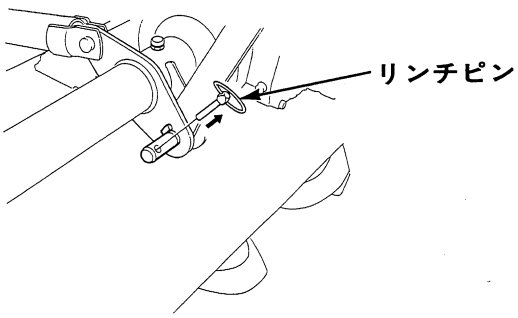
1)モード切換つまみを〝手動〟の位置にします。傾き設定つまみを〝水平〟の位置にします。深さ設定つまみを〝深い〟の位置にしてください。

2)エンジンを始動し油圧リフトレバーを〝下降〟の位置へ倒し、ロアリンクを下げてください。（ロアリンクが下がらない場合は手で下げてください。また重い場合は下降速度調整ノブを〝速い〟の方向へ回してください。）

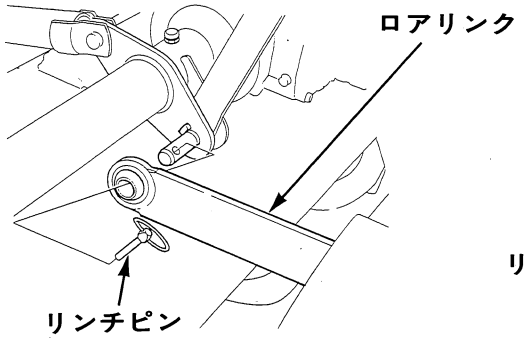
3)エンジンを停止し、キーを抜いてください。

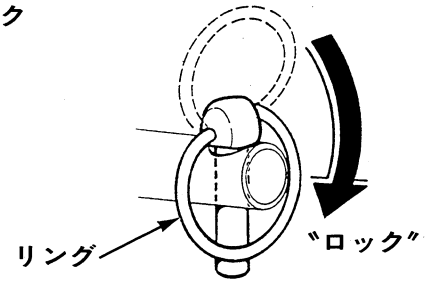


3．ロータリのロアリンクピンに取付けられているリンチピンを取外します。



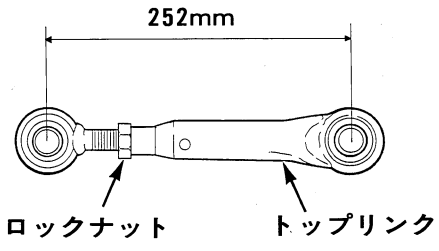
4．ロータリをトラクタ側へ移動させて、ロアリンクピンをロアリンクの穴に通しリンチピンのリングを確実にロックしてください。(左側のロアリンクを先に取付けてください。)

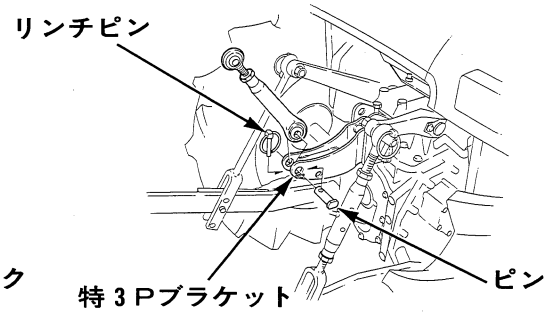




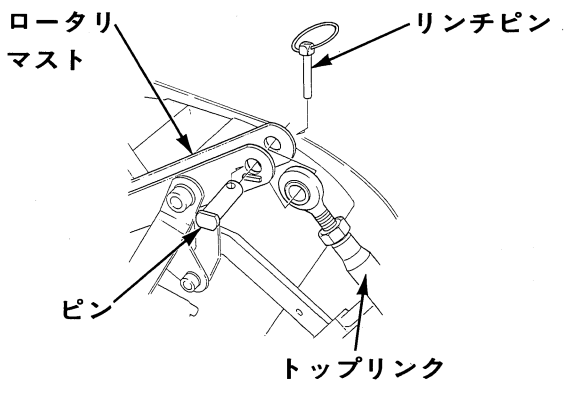
5．トップリンクの長さを図のように252mmに合わせ、ロックナットを確実に締付けてください。

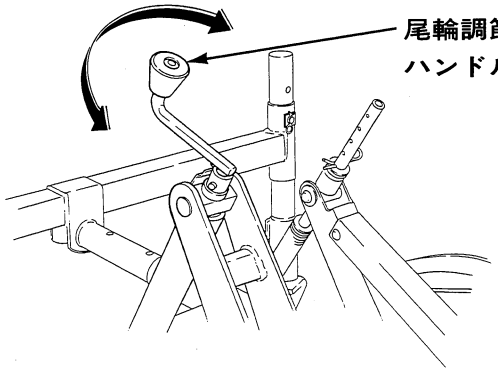
トップリンクを図の方向にして、特３Ｐブラケットの穴に合わせてピンとリンチピンで取付けます。リンチピンのリングは確実にロックしてください。





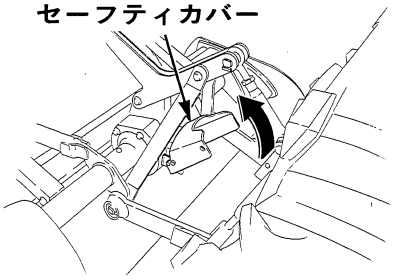
6．トップリンクとロータリマストの穴にピンを通しリンチピンを取付けリングをロックしてください。穴が合わない場合は、尾輪調節ハンドルを回して穴位置を合わせてください。

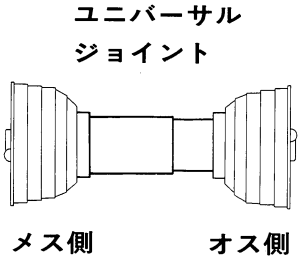


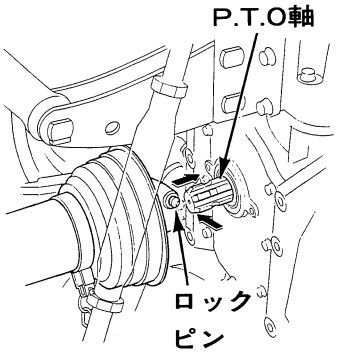


7．次の手順でユニバーサルジョイントを取付けます。

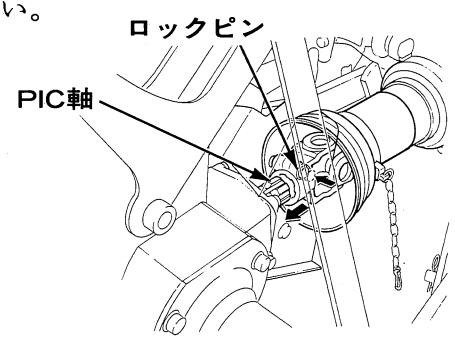
1)セーフティカバーを上げ、ユニバーサルジョイントのオス側ロックピンを押さえながらトラクタのP.T.O軸の根元まで差し込みます。

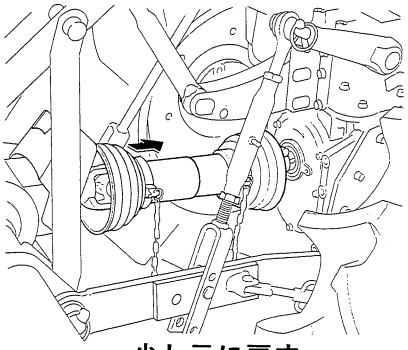






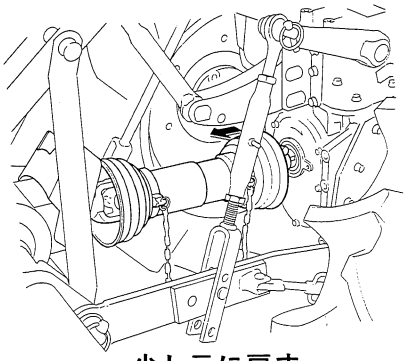
2)ユニバーサルジョイントのメス側ロックピンを押さえながらロータリのP.I.C軸の根元まで差し込みロックピンを離してからユニバーサルジョイントを少し元に戻します。ロックピンがP.I.C軸の溝にロックされていることを確認してください。

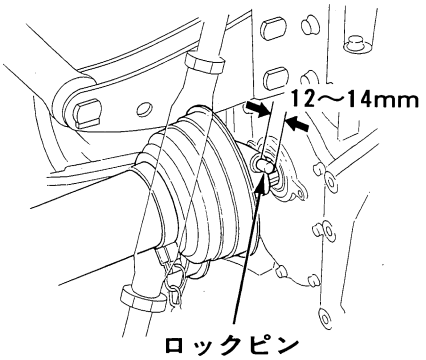




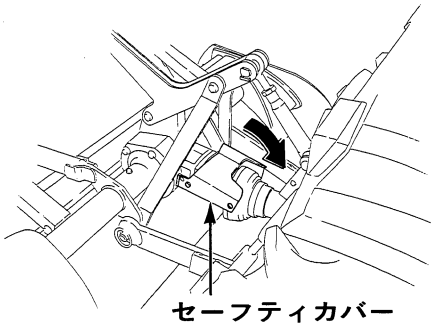
3)P.T.O軸側も、ユニバーサルジョイントを少し戻しロックピンがP.T.O軸の溝にセットされていることを確認してください。

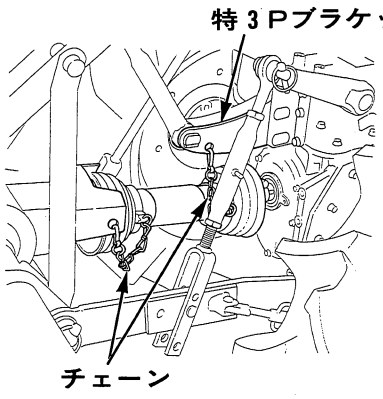
> **注意** ユニバーサルジョイントを差し込んだ後、確実にピンでロックされているか軽く手で引いて抜けないことを確認してください。ロックピンの先端が約12～14mm出ているのが正常です。





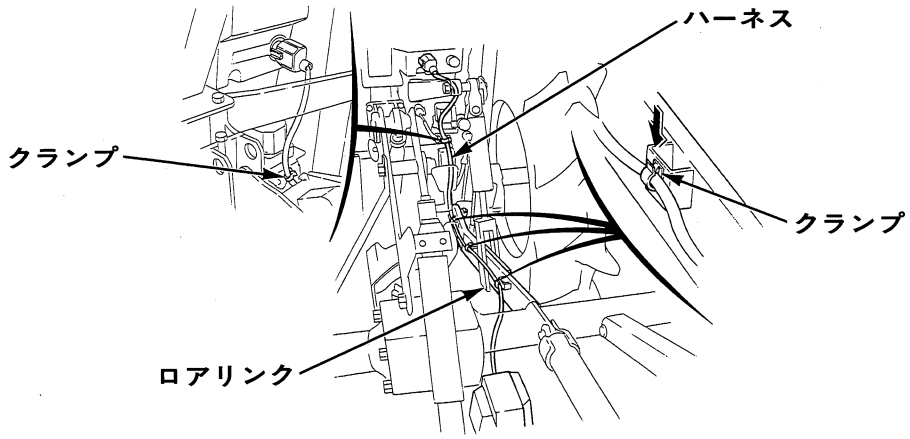
4)セーフティカバーを下ろし、チェーン２本を特３Pブラケットとセーフティカバーの穴に取付けます。





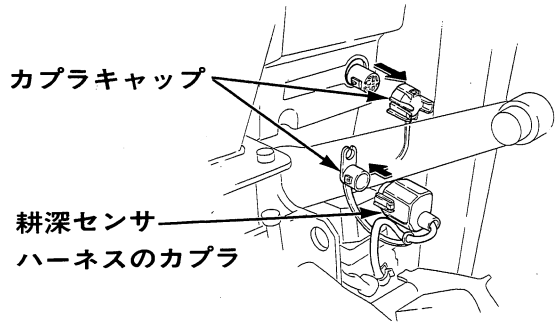
8．次の手順で耕深センサハーネスの接続をしてください。(HiS仕様のみ)

1)耕深センサのハーネスをロアリンクのクランプ３ヶ所とトラクタ後部のクランプ１ヶ所に止めます。

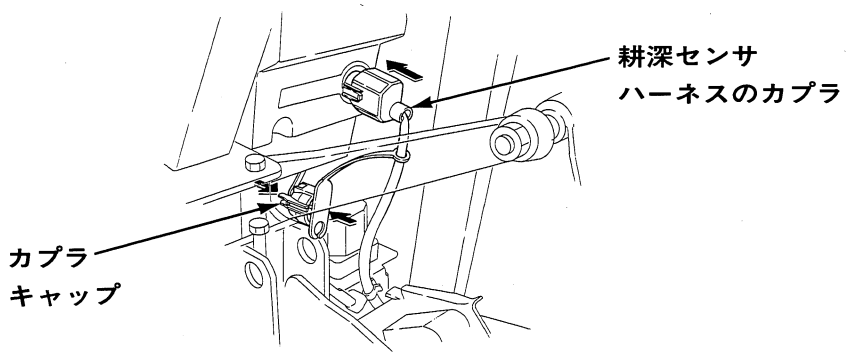


2)耕深センサハーネス、及びトラクタ後部のカプラキャップを取外します。カプラ内部が汚れている場合は乾いた布で汚れをふき取ってください。

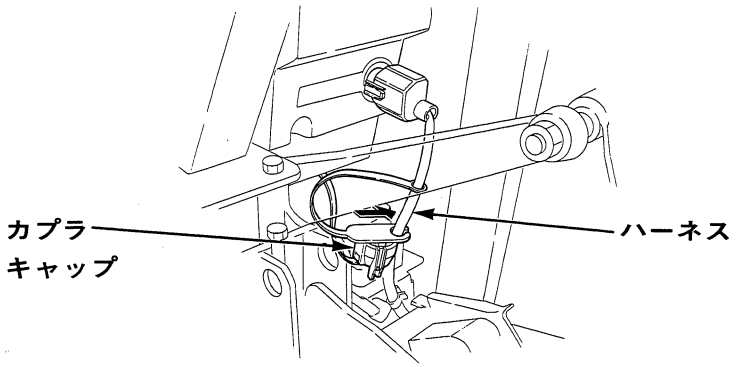
注意　カプラに防錆剤などを塗付しないでください。



3)耕深センサハーネスのカプラをトラクタ後部のカプラに確実に差し込みます。各カプラキャップを合わせて接続します。



4)一体のカプラキャップをセンサのハーネスに差し込みます。



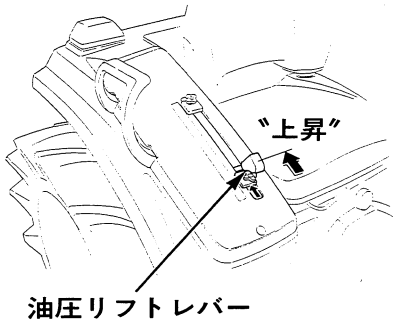
5)耕深センサハーネスの取外しは逆の手順で行ってください。

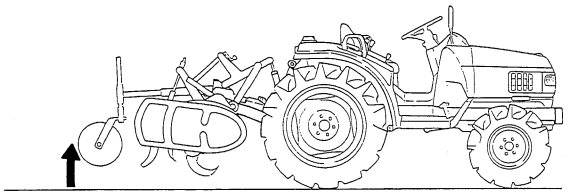
9．ロータリの水平の調整をします。

P.T.O変速レバー、主変速レバーが〝N〞の位置にあることを確認して、エンジンを始動します。

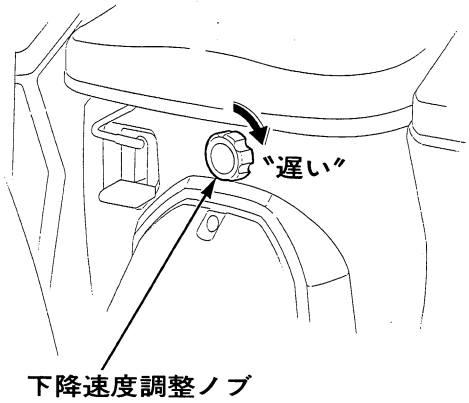
●機械式ポジションコントロール仕様

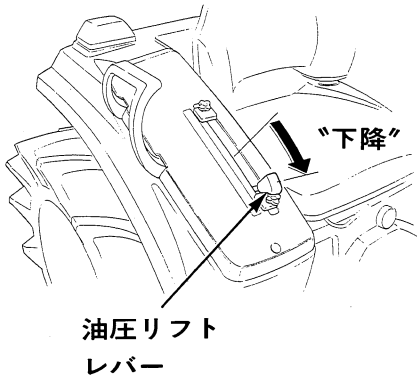
1)油圧リフトレバーを〝上昇〞側へ少し動かし、ロータリを地面から少し上昇させます。



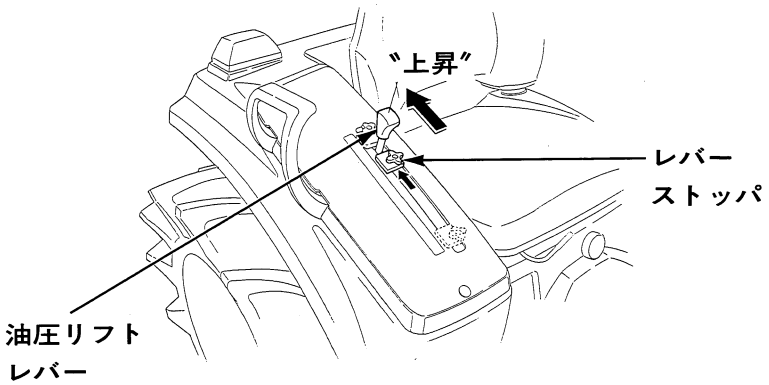


2)下降速度調整ノブを〝遅い〟(右回り)に止まるまで回します。油圧リフトレバーを〝下降〟の位置にしてロータリが落下しないことを確認します。





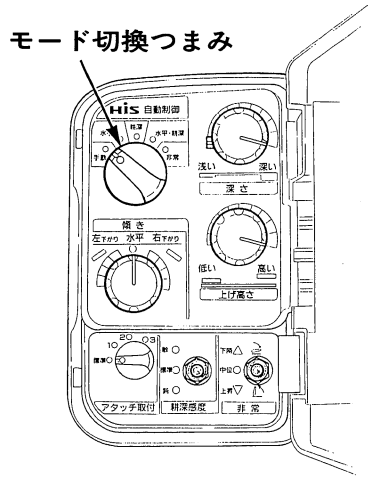
3)エンジンを停止し、キーを外してください。油圧リフトレバーを〝上昇〟の位置にして油圧リフトレバーをレバーストッパで固定します。

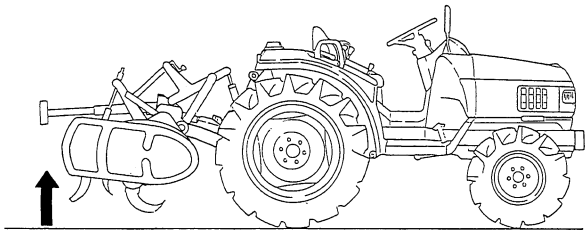


4)本機後方から見てロータリが水平になっていることを確認してください。ロータリが水平になっていない場合は油圧リフトレバーを〝下降〟にし、下降速度調整ノブを〝速い〟の方向へ少しづつ回してロータリを降ろしてください。
右側リフトロッドのターンバックルを回して調整します。調整後はロックナットを確実に締付けてください。(9頁参照)

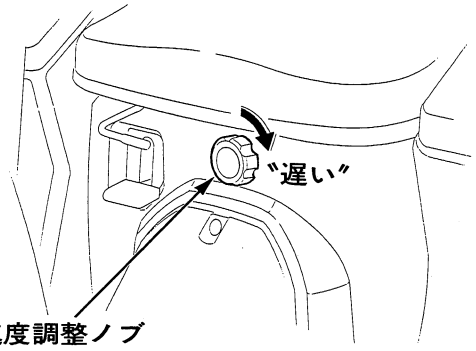
●HiS仕様

1)モード切換つまみを〝手動〟の位置にします。油圧リフトレバーを〝微調上昇〟の位置へ倒し、ロータリを地面から少し上昇させます。





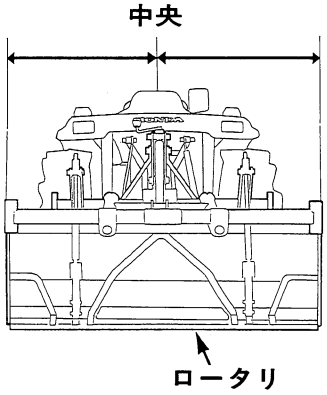
2)下降速度調整ノブを〝遅い〟(右回り)に止まるまで回します。
油圧リフトレバーを〝下降〟の位置へ倒し、ロータリが落下しないことを確認します。

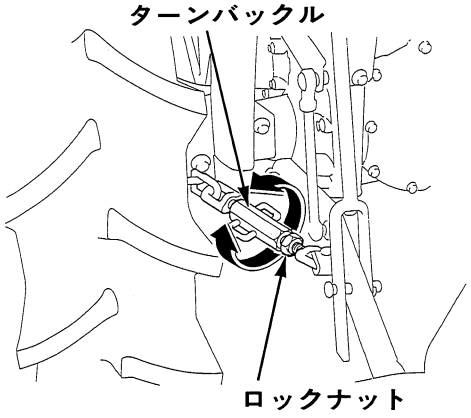


3)本機後方から見てロータリが水平になっていることを確認してください。ロータリが水平になっていない場合は傾き設定つまみで調整してください。

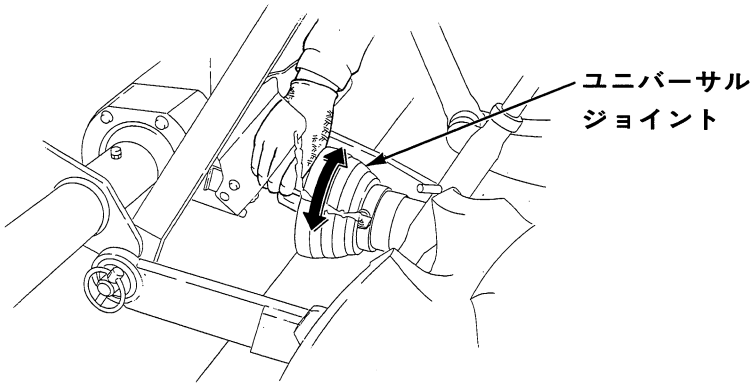
注意　傾きが大きい場合は販売店に相談してください。

10. エンジンを停止し、キーを取外します。
ロータリ後方から見てロータリが車体中央に位置するよう、スタビライザを張ります。ロックナットを弛め、ターンバックルを手で回してスタビライザを張り、ロックナットをスパナ等で確実に締付けます。





11. ユニバーサルジョイントが、手で軽く回るか確認します。



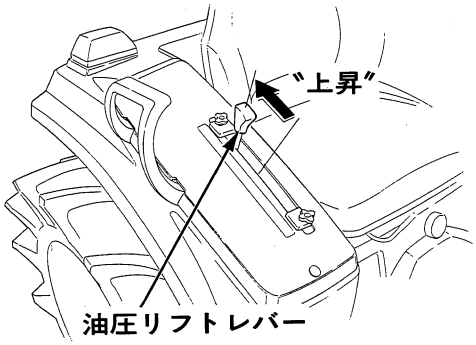
12. ロータリスタンドを収納します。（7～8頁参照）

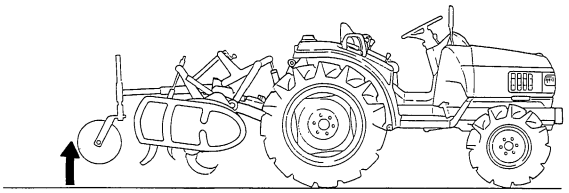
取付け後の作動確認

> 注意　作動確認を行うときは、周囲に人がいないことを必ず確認してから安全に注意して行ってください。

●機械式ポジションコントロール仕様

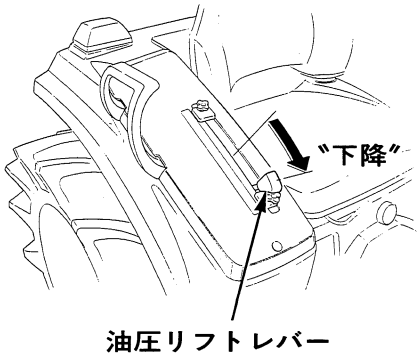
1．エンジンを始動します。油圧リフトレバーを〝上昇〟の位置にしてロータリが上昇することを確認します。





2．・下降速度調整ノブを〝遅い〟にロックするまで回してください。
・油圧リフトレバーを〝下降〟の位置にしてください。
・下降速度調整ノブを1/8回転づつ〝速い〟の方へ回してロータリが１～２秒で降りるように調整してください。（初めの１回転ぐらい遊びがあります。）

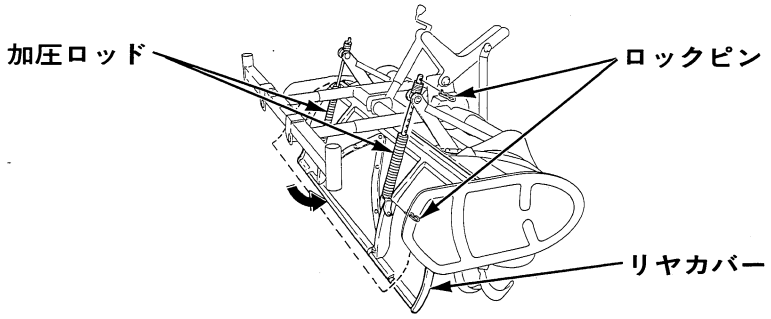
> 注意　・下降速度は作業機の重さ、外気温度等によって異なります。



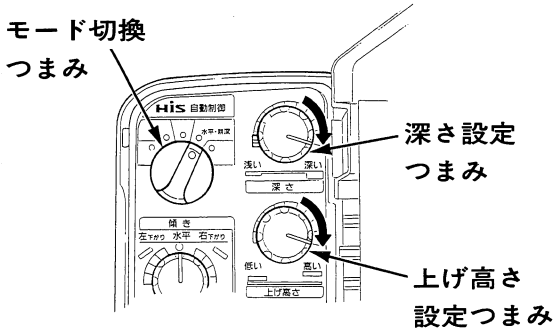


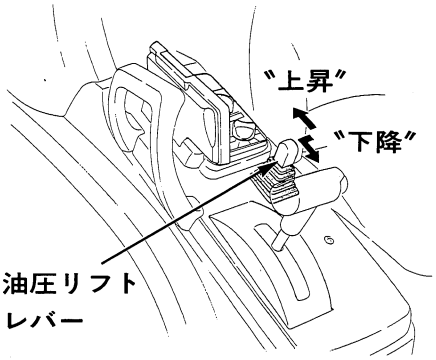
●HiS仕様

1．加圧ロッドのロックピン各１本を加圧ロッドのそれぞれ最上端、最下端の穴に差し込みリヤカバーを下げます。



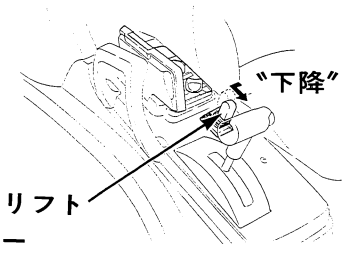
2．エンジンを始動し、モード切換つまみを〝水平・耕深〟の位置にします。
深さ設定つまみを〝深い〟に、上げ高さ設定つまみを〝高い〟の位置にします。
油圧リフトレバーを〝上昇〟の位置にして、ロータリが上昇することを確認します。

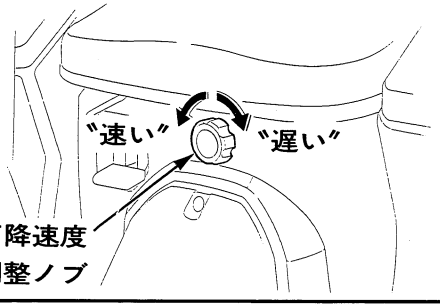




3．・下降速度調整ノブを〝遅い〟にロックするまで回してください。
・油圧リフトレバーを〝下降〟の位置にしてください。
・下降速度調整ノブを1/8回転づつ〝速い〟の方へ回してロータリが１～２秒で降りるように調整してください。

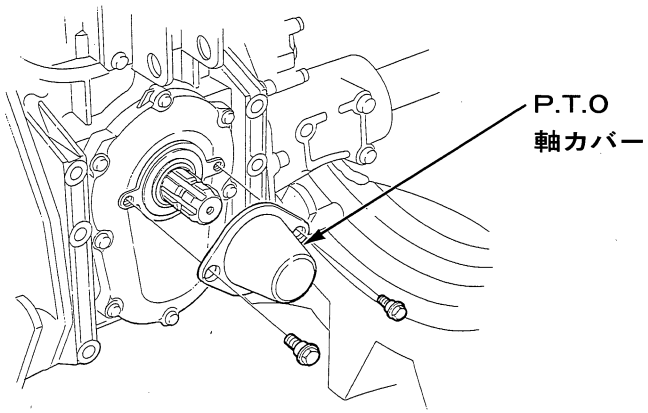
注意　・下降速度は作業機の重さ、外気温度によって異なります。





取外しかた

> 注意　ロータリを取外したときは必ずユニバーサルジョイントを外してください。またP.T.O軸を使用しないときは必ずカバーを取付けてください。



取外しの準備

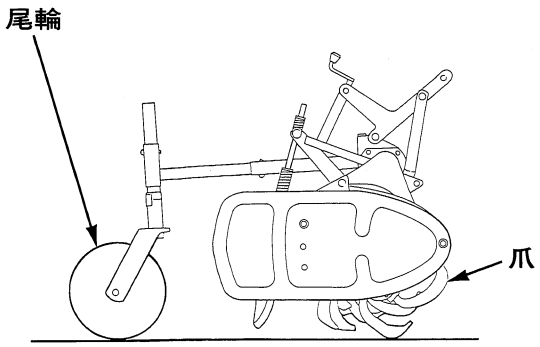
1．P.T.O軸変速レバーが〝N〟の位置にあることを確認します。

2．トラクタを平坦で硬い場所へ移動し、油圧リフトレバーを〝下降〟の位置にしてロータリを降ろします。

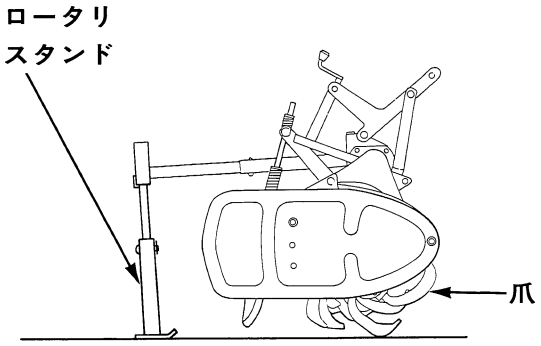
> 注意　ロータリを降ろす場合は安全及びロータリの破損を防ぐため、ゆっくり降ろしてください。

3．尾輪のない仕様の場合は、ロータリスタンドをセットしてください。（7～8頁参照）

4．尾輪又はロータリスタンドを接地させます。（尾輪調節ハンドルで調節してください。）爪も同時に接地していることを確認してください。



尾輪付の仕様



尾輪のない仕様

5．取外しの準備ができたら〝取付けかた〞と逆の手順で取外してください。（耕深センサハーネスの取外しは14、15頁参照）

HiS仕様はカプラキャップを必ずカプラに確実に差し込んでください。カプラに土や水が付着すると接触不良の原因になります。乾いた布で汚れを拭き取ってください。

取外した耕深センサハーネスは、破損を防止するためロータリに固定してください。

6．取外し後、ロータリを安定させるために尾輪調節ハンドルを〝深い〞の方向へ３～５回転させてください。

運転する前に点検しましょう

注意

- 作業前の点検を行うときは、下降速度調整ノブを〝遅い〟(右回り)にいっぱいに回し油圧をロックしてロータリを固定してください。
- 点検は平坦な場所で本機を水平にし、必ずエンジンを止め、キーを外してから行ってください。
- 作業前の点検は故障を未然に防ぐため、またロータリを長持ちさせるためにも必ず行ってください。

ロータリの固定のしかた

1．P.T.O軸変速レバー、主変速レバーが〝中立〟の位置にあることを確認し、エンジンを始動します。

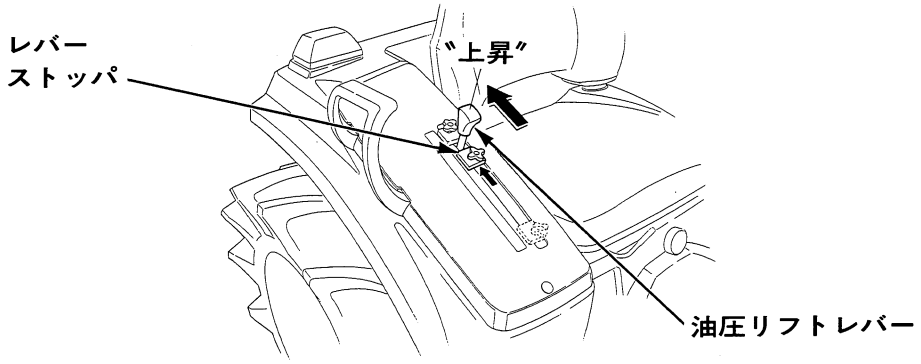
2．油圧リフトレバーを〝上昇〟の位置にしてロータリを上昇させ、下降速度調整ノブを〝遅い〟(右回り)に止るまで回し油圧をロックします。



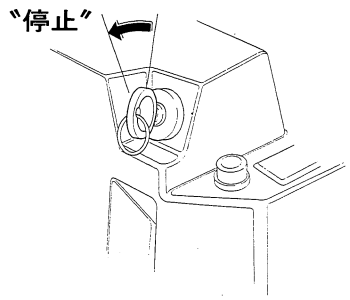
3．油圧リフトレバーを〝下降〟の位置にしてロータリが落下しないことを確認します。

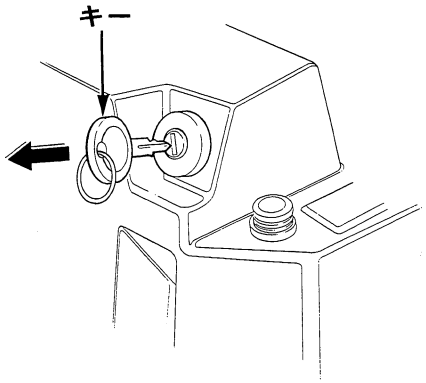


4．再度油圧リフトレバーを〝上昇〟の位置にして油圧リフトレバーをレバーストッパでロックします。(機械式ポジションコントロール仕様のみ)



5．エンジンを停止し、キーを外してください。





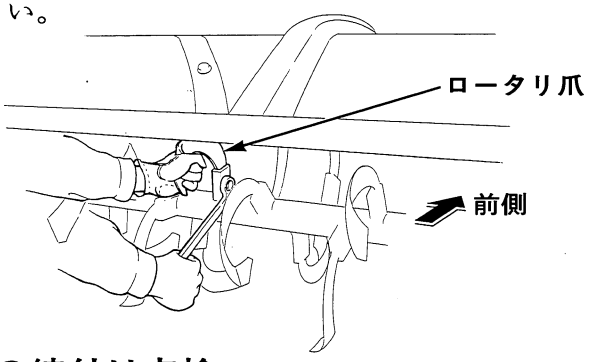
ロータリ爪、爪軸の点検

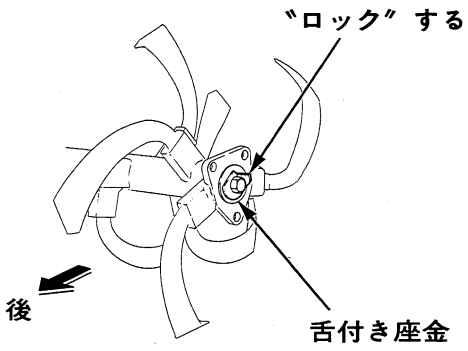
注意　ロータリ爪の点検を行う時は、必ず皮手袋などの丈夫な手袋をしてください。

1．ロータリを固定します。(23～24頁参照)

2．ロータリ爪の損傷、曲がり、ガタがないか点検してください。もし異常があったときは締付け、または交換してください。交換方法は30頁を参照してください。

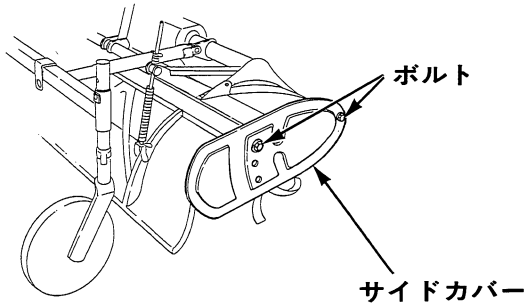
3．ロータリ爪軸の取付けボルトにゆるみがないか点検してください。もし緩んでいる場合は取付けボルトを締付けて舌付き座金の舌部で完全にロックしておいてください。





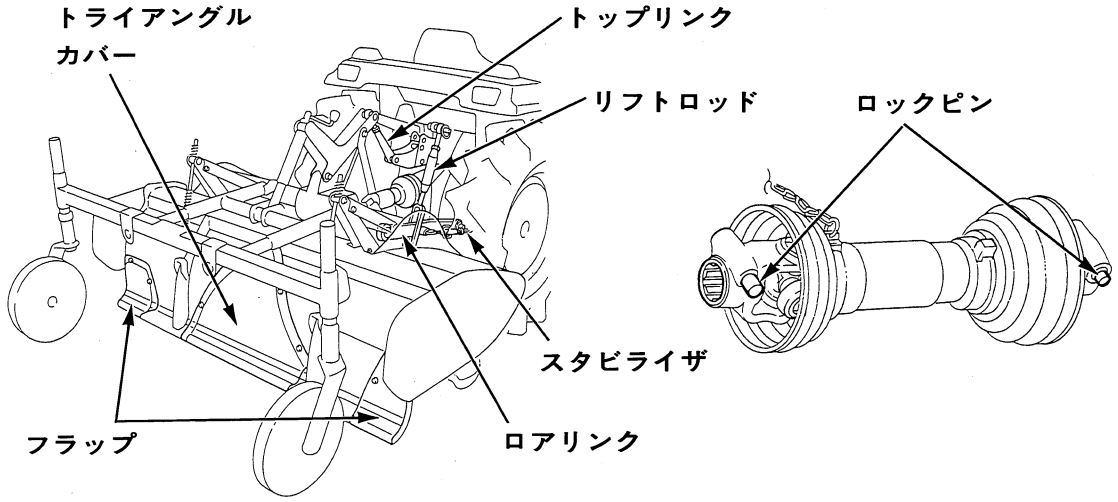
各部の締付け点検

■サイドカバー締付けボルトがゆるんでいませんか。



■フラップ締付けボルトはゆるんでいませんか。

■トライアングルカバー締付けボルトはゆるんでいませんか。



■トップリンク、右側リフトロッド(機械式ポジションコントロール仕様)スタビライザのロックナットが締まっているか確認してください。

■ユニバーサルジョイントのロックピンが確実にロックされているか確認して下さい。

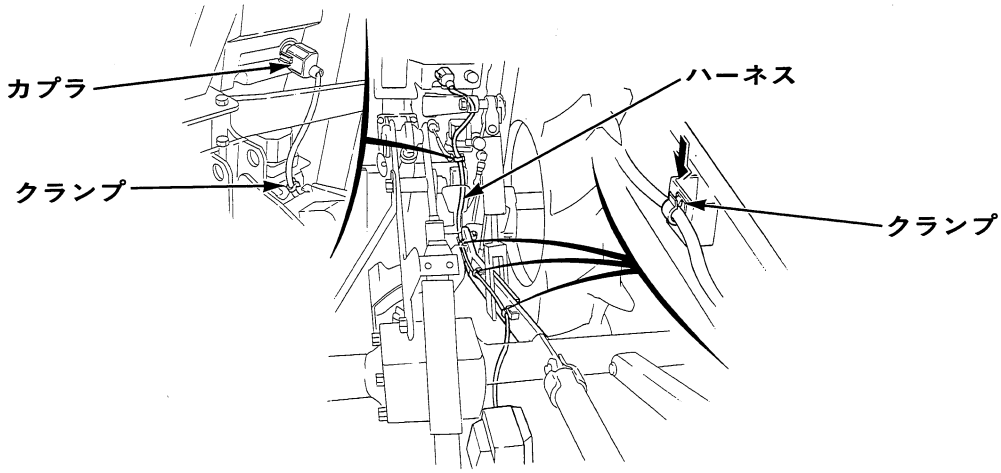
■ロアリンク、トップリンク取付け部のリンチピンのリングが確実にロックされているか確認してください。

耕深センサカプラ、ハーネスの点検(HiS仕様のみ)

カプラが外れていたり、ハーネスが損傷していると〝耕深〟や〝水平・耕深〟モードのとき耕深が安定しません。また故障の原因となります。

・カプラが正しく接続されているか確認してください。

・ハーネスがクランプ内に固定されているか確認してください。



耕　う　ん　作　業

圃場での注意

圃場での作業は、作物・耕地の形状・水田・湿田・畑などによって作業方法が異なります。圃場に応じた作業方法を工夫して、効率のよい作業を行ってください。

(1)ロータリを後部に装着すると、前輪にかかる重量が変わり、前輪が浮き上がりやすくなります。発進する時は、エンジン回転を下げてクラッチペダルから足をゆっくり離して静かに発進してください。

(2)圃場への出入りは、つぎの事項に注意してください。

- ブレーキペダルの左右の連結を、必ず確認してください。
- あぜ道と圃場への出入りは、4WD(4駆)に切換えて斜めに登り降りせず直角に行ってください。
- 圃場の出入りぐらいと簡単に考えず、事前に圃場出入り用のアユミ板、あぜ道の傾斜をゆるくするなどの準備をしておきましょう。
- 圃場への出入りは高低差が大きいと、ロータリ部があぜにつかえてロータリ部を損傷するばかりでなく危険ですのでアユミ板などを使用してください。
- 代かき作業などでタイヤがぬれているとちょっとした傾斜でもスリップすることがあります。このような場合には、すべり止めのついた板を使用してください。
- あぜ道の登り始めは、ロータリの回転を止め、下にさげ前進すると前輪の浮き上がりが少なくなります。あぜ道を登りきったらロータリをゆっくり上げてください。

(3)圃場での作業によってロータリ爪の回転速度および走行速度が異なります。作業の目的と条件に合わせて決めてください。(34～39頁参照)

(4)旋回するときは、必ず速度を下げてください。高速で急旋回すると大変危険です。もし怠ると傷害事故を引起こすことがあります。

(5)後退するときや、旋回するときは、必ずロータリを上げてから行ってください。もし怠るとロータリを破損する恐れがあります。

(6)後進で耕うんを行いますと、ロータリを破損するばかりでなく危険ですのでおやめください。

(7)下降速度調整ノブでロータリの下降速度を適切な速度に調整してください。(27頁参照)

(8)圃場に入って作業を行う場合は、ブレーキペダルの連結金具を外し、左右のブレーキが別々に使用できる状態にすると旋回性を高めることができます。

(9)あぜぎわで旋回する場合、リフトレバーでロータリを上げ、ハンドルを切ると共に、旋回側のブレーキペダルを踏むと、小回り旋回が行えます。(信地旋回)

(10)軟弱地では、左右の車輪の抵抗が不釣合となって、片側のタイヤが空転することがあります。このような場合は、デフロックペダルを踏むと、空転を防ぎ、けん引力が出ます。

(11)圃場での作業は4WD(4駆)をご使用ください。

各部の取扱いと調整のしかた

1.下降速度調整ノブ

シート下に下降速度調整ノブがあります。

このノブを回すことにより作業機の下降速度を調整することができます。

〝遅い〞(右回り)に回すと……下降速度が遅くなります。

〝速い〞(左回り)に回すと……下降速度が早くなります。

右に止まるまで回すと……下降しなくなります。(点検、調整時使用します)



・作業機の下降速度は、最も上がった位置から接地するまで1～2秒を目安としてください。

注意

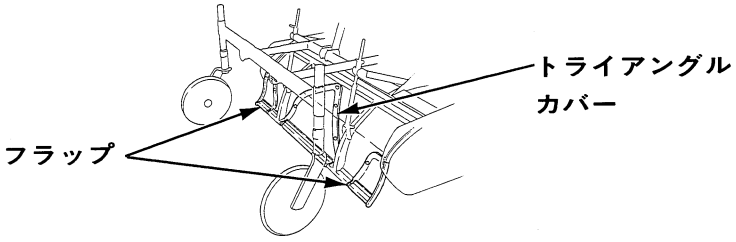
・調整、確認を行うときは、周囲の安全に十分注意してください。
・下降速度は作業機の重さ、外気温度等によってかわります。
・調整ノブは一気にゆるめないでください。一気にゆるめると作業機が思わぬ速さで下降することがあります。1/8回転ごとに確認してください。作業機を交換した時は必ず再調整してください。
・ロータリを点検調整する場合にはロータリの下降を防止するため、下降速度調整ノブを〝遅い〞(右回り)にいっぱいに回してください。又リフトレバーを〝下降〞の位置にしてロータリが落下しないか必ず確認してください。
機械式ポジションコントロール仕様の場合は、確認後、油圧リフトレバーを〝上昇〞の位置に戻して油圧リフトレバーをロックしエンジンを停止してキーを外してください。
HiS仕様の場合はエンジンを停止してキーを外して下さい。

2.リヤカバー

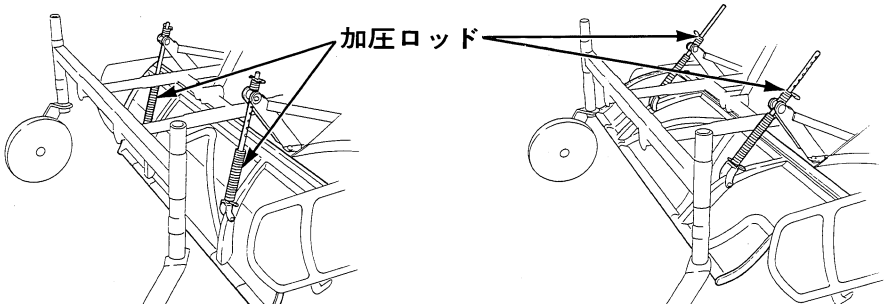
リヤカバーにはフラップ(左右)とトライアングルカバーが装備され、作業に応じて取外すことができます。(34～39頁参照)

フラップ ……尾輪を前に寄せて使う場合に外します。取外し方は、ナット2個を(片側につき)外してフラップを取外します。

トライアングルカバー ……畝立器を使う場合に外します。取外し方は、ナット5個を外してトライアングルカバーを取外します。



リヤカバーは作業に応じて角度を変えられます。角度を変える場合は加圧ロッドのロックピン位置を図の様に変えます。(34～39頁参照)

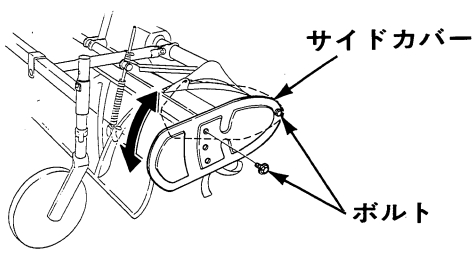


注意 後退しながら耕うんしますと、ロータリを破損するばかりでなく危険ですのでおやめください。

3.サイドカバー

作業に応じてサイドカバーの位置調節ができます。ボルトを外して希望の位置に合わせてください。(34～39頁参照)

調整後はボルトを確実に締付けてください。



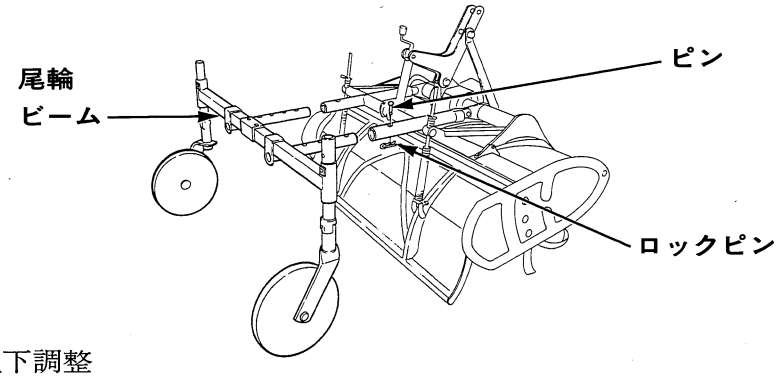
4.尾輪

作業に応じて前後、上下に尾輪を調整することが出来ます。

1．尾輪の前後調整

1)尾輪ホルダのロックピンとピンを外し、尾輪ビームを前後に動かします。

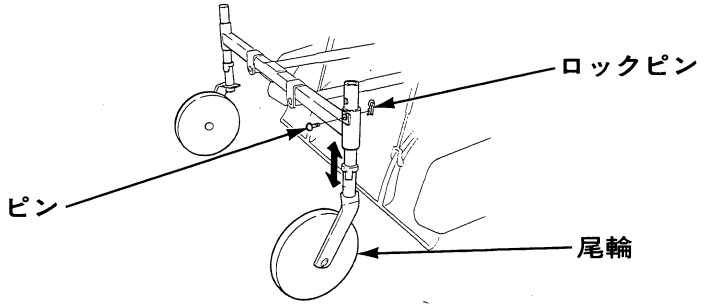
2)使用する穴位置に合わせて(4ヶ所)、ピンとロックピンを取付けます。



2．尾輪の上下調整

1)尾輪ビームのロックピンとピンを外します。

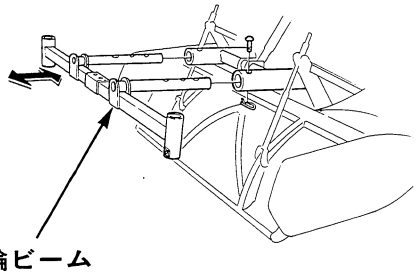
2)尾輪を上下させ、使用する穴位置(3ヶ所)に合わせて、ピンとロックピンを取付けます。



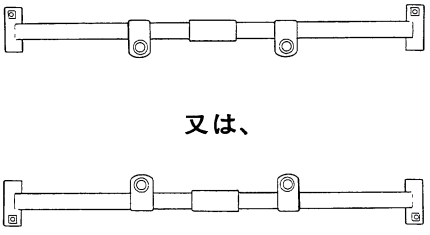
3．尾輪ビームの上下入れ換え

1)尾輪ホルダのロックピンとピンを外し、尾輪ビームを引き出して尾輪ホルダを上下逆の状態で尾輪ホルダに入れます。

2)ピンとロックピンを取付けます。



尾輪ビームの取付け方向

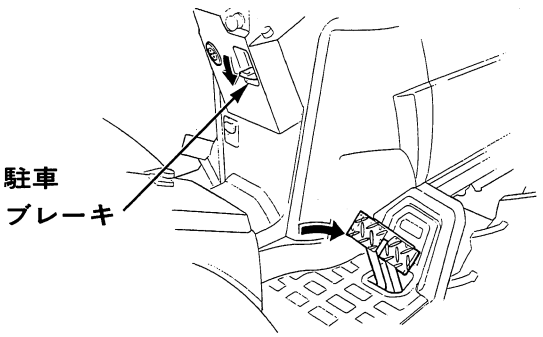


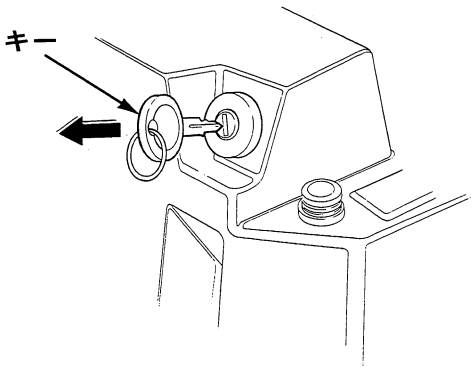
5.ロータリ爪

ロータリ爪の交換

注意

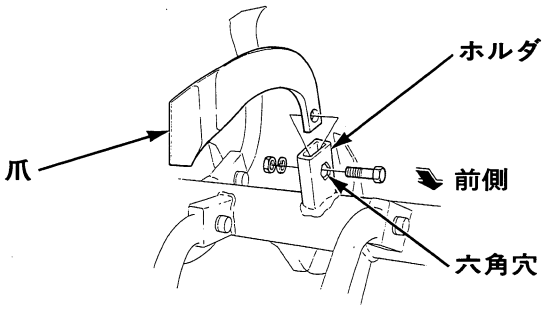
- P.T.O軸変速レバーを〝N〟の位置にしてください。
- 本機を平坦な場所に止め、下降速度調整ノブを右に止まるまで回し油圧をロックしロータリを固定してください。(ロータリの固定のしかた23〜24頁参照)
- エンジンを停止させ、キーを外して、駐車ブレーキをロックしてから作業を行ってください。
- ロータリ爪の交換を行うときは、必ず皮手袋などの丈夫な手袋をしてください。





取外し

17mmメガネレンチでナットを外し、ボルトとワッシャを外します。爪をホルダから取外します。

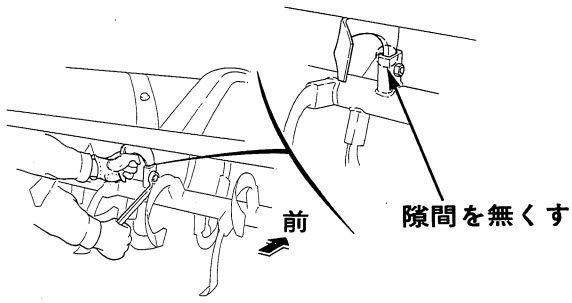


取付け

取付けはホルダの六角穴にボルトの頭を入れ、ナットを確実に締付けます。

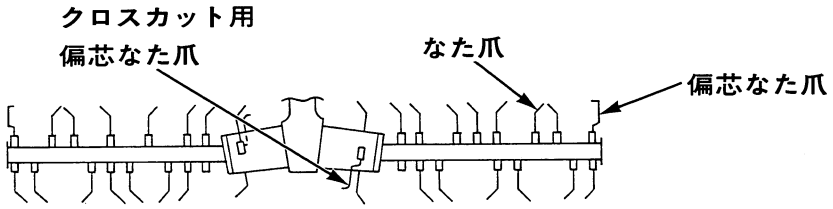
注意

ナット締付けは、各ロータリ爪とホルダ間に隙間を無くす為、図のようにロータリ爪を手で押さえながら行ってください。



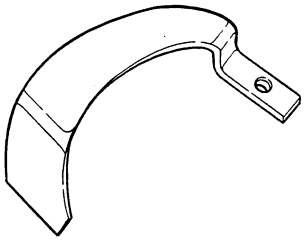
ロータリ爪の取付け方向(爪軸はロータリ後方から見たときの状態です。)

普通耕うん(平面耕うん)



・偏芯なた爪

爪軸の一番外側の○印の刻印のあるホルダに取付けます。爪の曲がり方向が内側を向くように取付けてください。



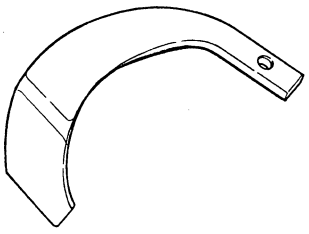
・クロスカット用偏芯なた爪

クロスカット部のCR又はCLの刻印のあるホルダに取付けます。爪の曲がり方向が内側を向くように取付けます。



・なた爪

偏芯なた爪、クロスカット用偏芯なた爪の取付けられた以外のホルダに取付けます。

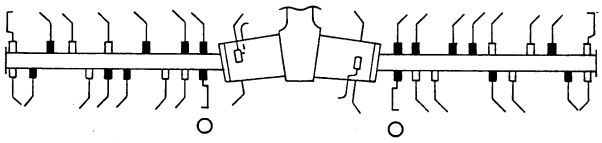


外盛耕うん(爪軸はロータリ後方から見たときの状態です。)

・普通耕うん時の、外側から左右2本(計4本)とクロスカット部(6本)を除き、他の爪の曲がり方向を全て外向きにしてください。

・付属の偏芯なた爪を下図の○印のあるホルダに外向きに取付けてください。ホルダには○印の刻印があります。

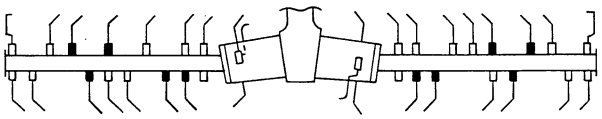
(外盛耕うん以外の時は爪を外してください。)



・○印のあるホルダに付属の偏芯爪を取付けてください。

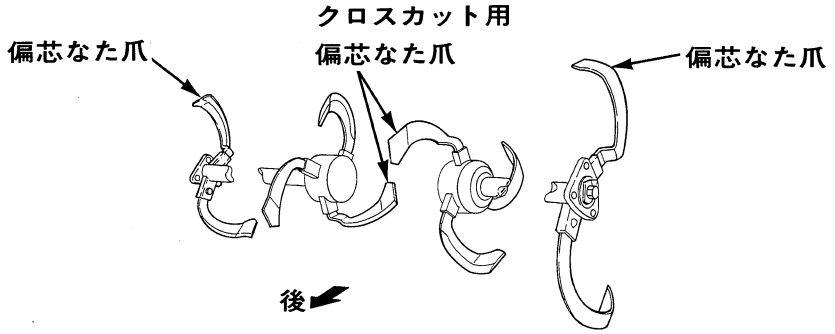
内盛耕うん(爪軸はロータリ後方から見たときの状態です。)

・普通耕うん時のクロスカット部(6本)を除き、他の爪の曲がり方向を全て内向きにしてください。



クロスカット部の爪取付け方向

・クロスカット部の爪取付け方向は、普通耕うん(平面耕うん)、外盛耕うん、内盛耕うんの全てに同じです。下図を参照してください。



耕うん順序

以下に一般的な耕うん順序を示します。

①図１のような順序で片ブレーキを使い、信地旋回により隣接耕を行い、枕地(周囲)は回り耕で仕上げます。

②軟弱圃場では図２のように片ブレーキを使わずに一畦おき耕を行うと、土寄せが少なく仕上ります。

③代掻では、図２の一畦おき耕が一般的です。各圃場に合った方法で作業を行ってください。

圃場条件により複数掛けを行う場合には、２回目以降を前回の耕うん方法に直交する方向で行ってください。

図１　隣接耕の順序

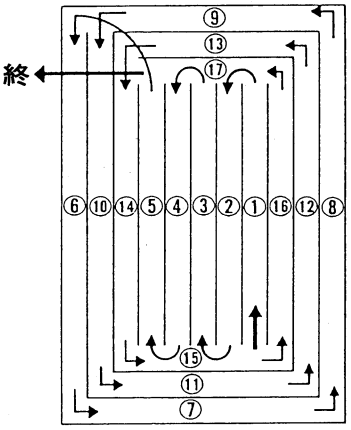
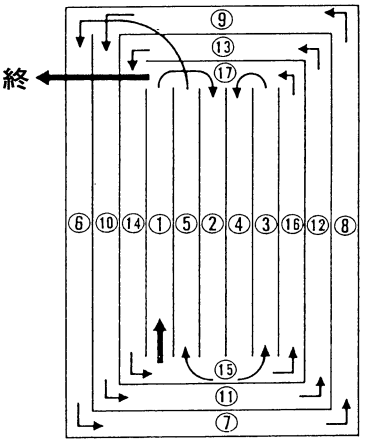
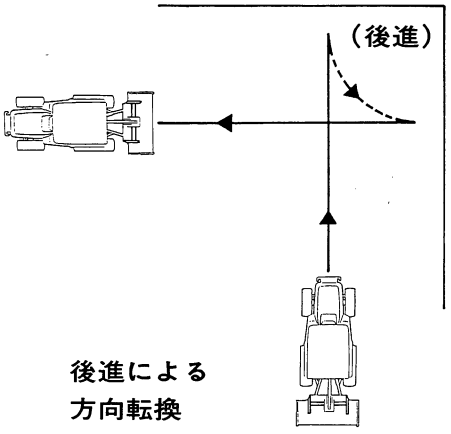


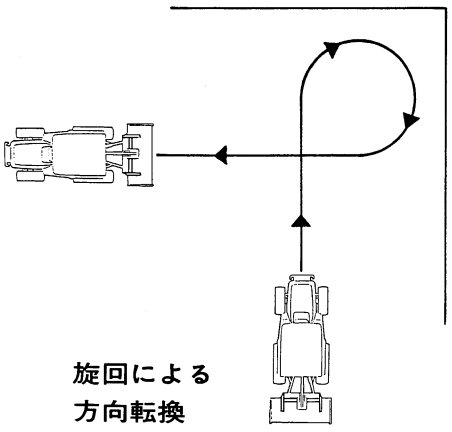
図２　一畦おき耕の順序



方向転換のしかた



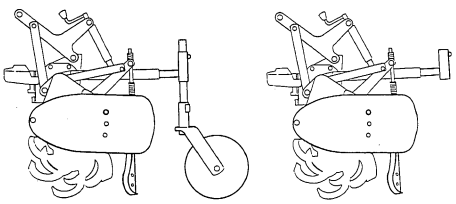
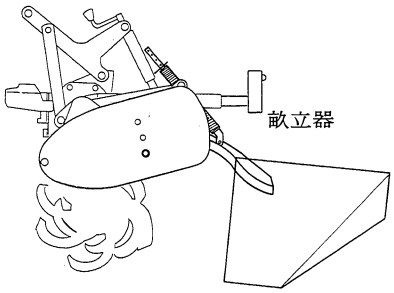
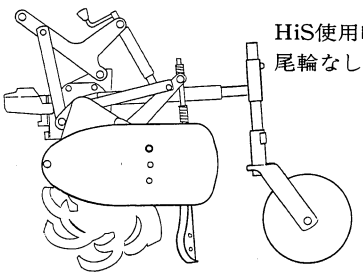
後進による
方向転換

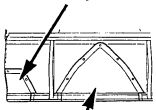
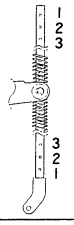
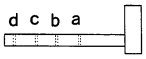
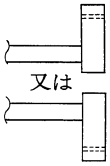
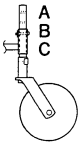
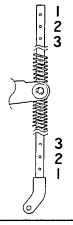
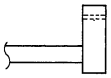
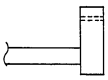
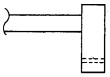


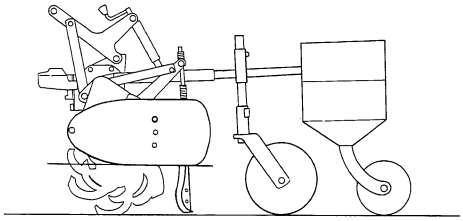
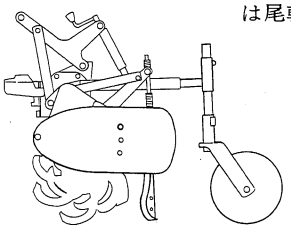
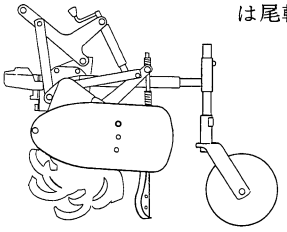
旋回による
方向転換

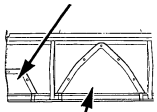
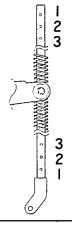
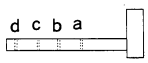
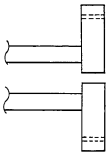
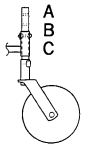
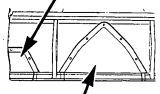
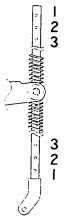
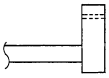
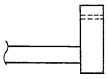
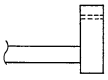
耕うん方法

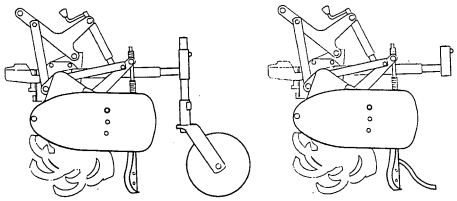
耕うん方法は作物や圃場の条件によって異なります。それぞれの圃場に応じた作業方法を工夫し効率のよい作業を行ってください。以下に標準的な耕うん方法を示します。作業の目安にしてください。

作業内容	車速 (副-主)	P.T.O 変速	ロータリの状態	サイド カバーの 状態	爪配列 (爪配列のくわしい内容については31、32頁を参照してください。)
一般乾田 耕起 (荒おこし)	L-3 M-1 M-2	1	機械式ポジション コントロール仕様　　HiS使用時 	上げ 又は 標準	平面耕
乾田 溝切り、 畝立	L-3 M-1 M-2	1 2		取外し 又は 上げ	平面耕 又は 外盛耕
代　掻	M-2 M-3 H-1	2		標準	平面耕

尾輪使用時					HiS使用時（耕深制御）	
リヤカバー フラップ  トライアングルカバー	加圧ロッドピン位置 	尾輪位置 尾輪ビーム 前 後 	尾輪ビーム 上 下 	尾輪パイプ 上 下 	リヤカバー フラップ  トライアングルカバー	加圧ロッドピン位置 
フラップ取外し	上から 6～12 下から 1～3	最前位置 (a)	ピン穴上 	A～C	——	上1 下1
トライアングルカバー取外し	上から 1～12 下から 1～6	尾輪取外す			トライアングルカバー取外し	上から 1～12 下から 1～6 〝手動モード〟 または 〝水平モード〟 を使用
圃場に応じてレベラを使用	上1から (レベラ使用時 上から1～3) 下から 1～5	2～3番目に前の位置 (b～c) レベラ使用時は最後位置 (d)	 又は  ピン穴下	A～C	圃場に応じてレベラを使用	上1 下1

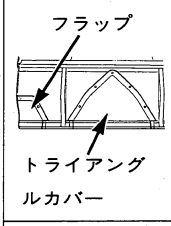
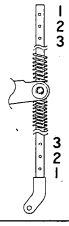
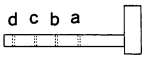
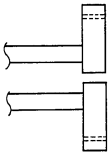
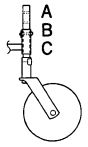
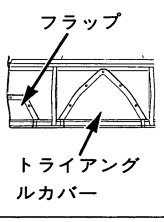
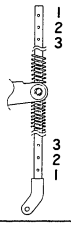
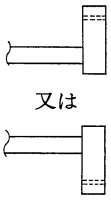
作業内容	車速 (副-主)	P.T.O 変速	ロータリの状態	サイド カバーの 状態	爪配列 (爪配列のくわしい内容については31、32頁を参照してください。)
畑地 施肥播種	L-3 M-1 M-2	1 2	施肥播種機 	上げ 又は 標準	平面耕
畑地 耕起	L-3 M-1 M-2	1 2	HiS使用時 は尾輪なし 	上げ 又は 標準	平面耕
畑 均平、砕土	L-3 M-1 M-2	1 2 3	HiS使用時 は尾輪なし 	上げ 又は 標準	平面耕

尾輪使用時					HiS使用時（耕深制御）	
リヤカバー フラップ  トライアングルカバー	加圧ロッドピン位置 	尾輪位置 尾輪ビーム 前 後 	尾輪ビーム 上 下 	尾輪パイプ 上 下 	リヤカバー フラップ  トライアングルカバー	加圧ロッドピン位置 
——	上から 1～5 下から 1～6	最前位置 (a)	ピン穴上 	A～C	——	上1 下1
——	上から 1～12 下から 1～6	2～3番目に前の位置 (b～c)	ピン穴上 	A～C	——	上1 下1
——	上から 1～5 下から 1～6	2～3番目に前の位置 (b～c)	ピン穴上 	A～C	——	上1 下

作業内容	車速 (副-主)	P.T.O 変速	ロータリの状態	サイド カバーの 状態	爪配列 (爪配列のくわしい内容については31、32頁を参照してください。)
畑地 浅耕 (耕深100mm未満)	M-1 M-2	1 2	尾輪使用時　HiS使用時 	標準	平面耕

作業深さ(耕深)は、耕深調整ハンドル、又はHiS深さ設定つまみにより、圃場必要耕深とします。

耕深の目安：乾田90～140mm、
畑120～200mm

尾輪使用時					HiS使用時（耕深制御）	
リヤカバー	加圧ロッドピン位置	尾輪位置			リヤカバー	加圧ロッドピン位置
		尾輪ビーム 前 後 	尾輪ビーム 上 下 	尾輪パイプ 上 下 		
均平性を良くしたい場合はレベラを使用	上1から（レベラ使用時は上から1～3） 下から 1～6	2～3番目に前の位置 (b～c) レベラ使用時は最後位置 (d)		A～C	レベラを使用	上1 下1

・HiS使用時はリヤカバーが地面に接地するようにしてください。

・HiS使用時は尾輪ビームとリヤカバーが接触しないように尾輪調節ハンドルで調整してください。

やさしい点検・整備

注意　手入れを行うときは、エンジンを止めエンジンスイッチキーを外して、駐車ブレーキをロックして、本機を平坦な広い場所に置き、安全を確認してから行ってください。

・手入れや修理には必ずホンダ純正部品を使用してください。

定期点検表

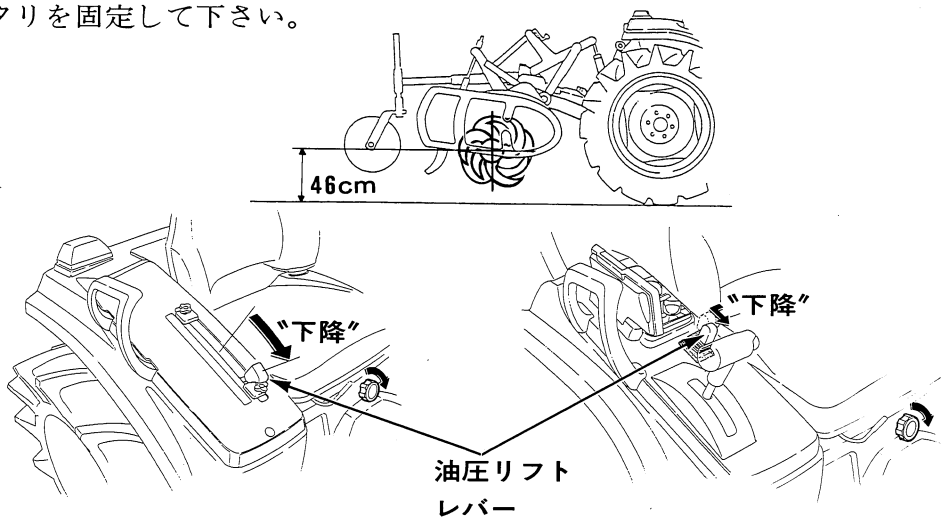
点検項目＼点検時間		作業前点検	初回 20時間目	50時間 運転毎	100時間 運転毎	300時間 運転毎	シーズン前 又は 1年1回	参照 ページ
センタケースオイル	点検						○	41～42
	交換		○			○		
ロータリ爪・爪軸のゆるみ	点検	○						24
各部のゆるみ	点検	○						24～25
耕深センサカプラ、ハーネス(HiS仕様)	点検	○						25
各部の給油及びグリース塗布				○			○	43

センタケースオイルの点検、交換

点検

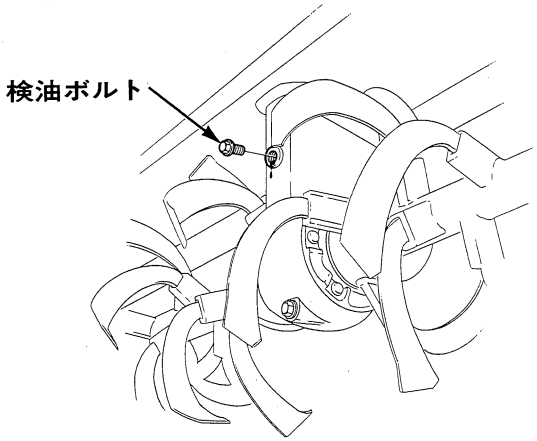
《点検時期》 シーズン前又は、１年に１回

1.本機を平坦な場所に停止し、油圧リフトレバーを〝下降〟の位置に少し動かし、爪軸の中心が地上から46cmの高さのところまでロータリを下降させます。
シート下の下降速度調整ノブを〝遅い〟(右方向)に止まるまで回して油圧をロックし、ロータリを固定して下さい。



（機械式ポジションコントロール仕様）　　（HiS仕様）

2.エンジンを停止し、キーを抜いてください。およそ５分後にセンタケースの検油ボルトを取外しオイルがボルト穴の位置まであることを点検します。

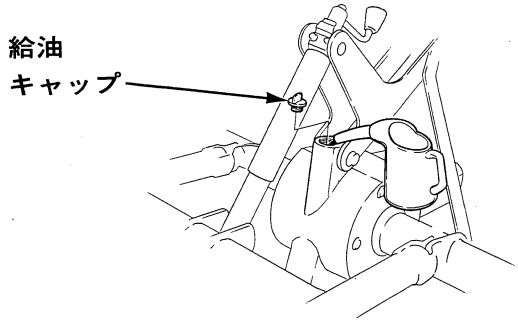


補給

給油キャップを外し、新しいオイルを検油ボルトの穴からオイルが流れるまで補給します。

推奨オイル：ギヤオイル90#

(API分類GL－３または GL－４ SAE90#相当)



交換

《交換時期》初回：20時間目、以後：300時間運転毎

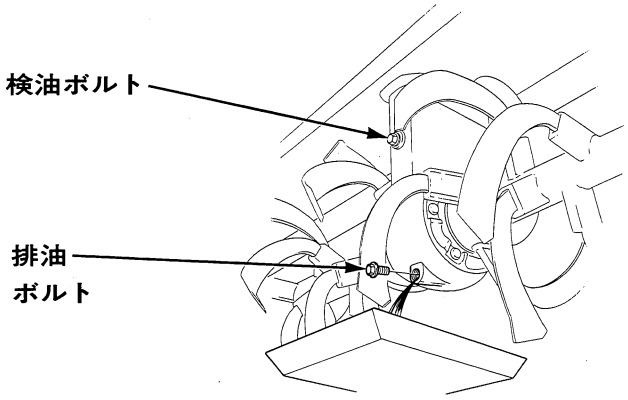
《規定量》3.0ℓ

《交換のしかた》

1.ベベルギヤオイルを抜きやすくするため、数分間ロータリを回します。

2.平坦な場所に本機を止め、ロータリを降ろし、爪を地面に接地させます。エンジンを停止させてキーを外します。

3.排油ボルトとワッシャを外し、オイルを抜きます。



4.排油ボルトとワッシャをセンタケースに取付け、確実に締付けます。

5.検油ボルトとワッシャを外します。

6.給油キャップを外し、検油ボルトの穴の口元から少したれるまで新しいオイルを注入します。注油は少しずつ、ゆっくり行ってください。

7.注入後、検油ボルトとワッシャをセンタケースに取付け、確実に締付けます。給油キャップをセンタケースに取付けます。

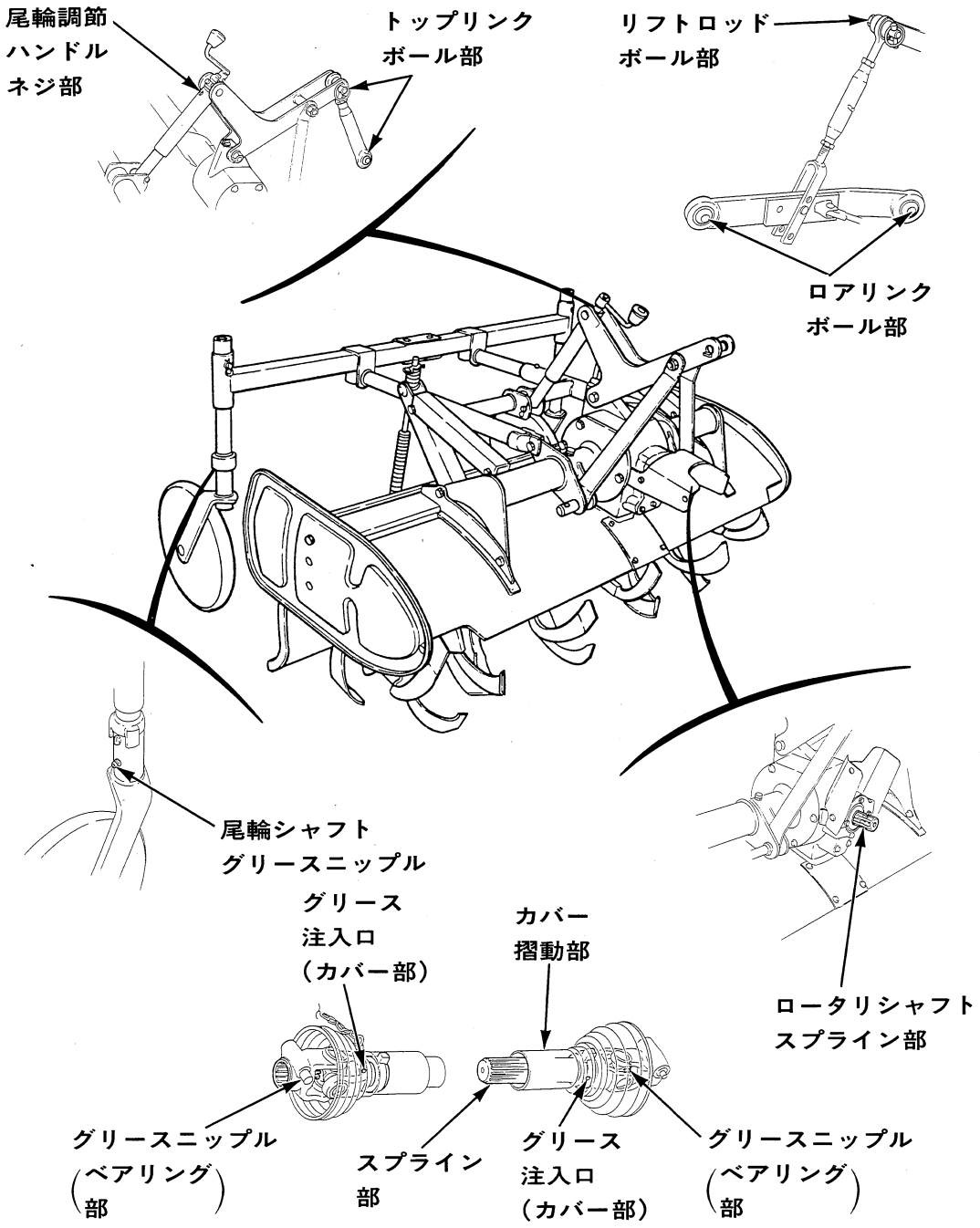
各部の給油およびグリース塗布

《給油時期》50時間運転毎、シーズン前または１年に１回

指示箇所にグリースを塗布してください。

使用グリース：マルチパーパスグリース

・ロータリを洗浄した後は、給油箇所を点検し、必要な場合は給油してください。

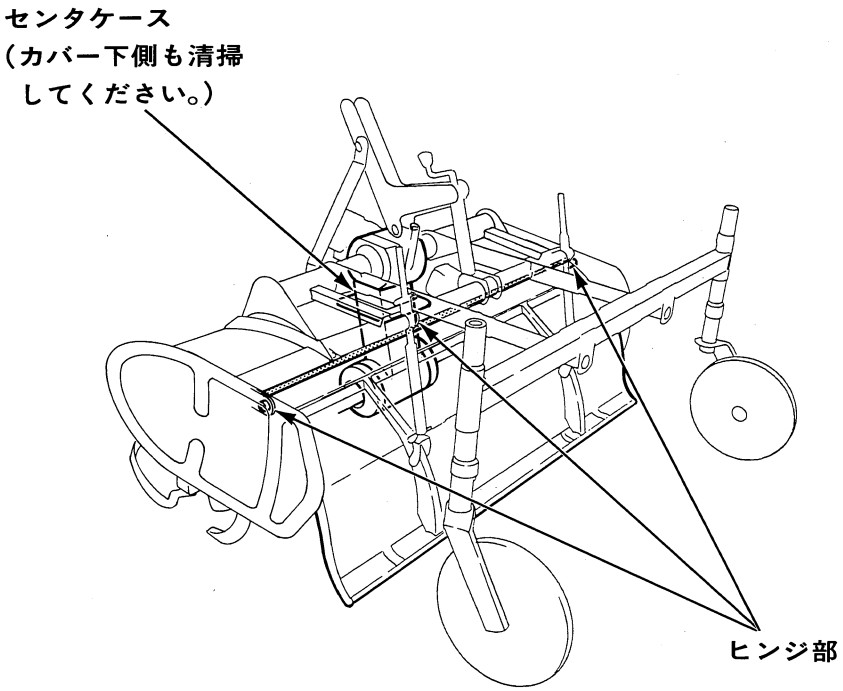


各部の清掃

使用後、ロータリに付いた土や泥を洗い落してください。

特にセンタケースまわり、リヤカバーのヒンジ部は土がたまりやすいので十分清掃してください。

長期間保管する場合は、清掃後水分をよくふきとり乾燥させてから保管してください。



故　障　の　と　き　は

むやみに分解しないで、はやめにお買いあげ販売店で点検整備をしてもらうことがロータリを長持ちさせる秘けつです。

1．ロータリが上げ下げできないときは

・下降速度調整ノブは開いてますか。 ——→ 下降速度調整ノブを開き速度を調整してください。(27頁参照)

・油圧リフト レバーを正しく操作していますか。

●機械式ポジションコントロール仕様
油圧リフトレバーのストッパの位置は適切ですか。 ——→ ストッパ位置を適切な位置にして油圧リフトレバーを操作してください。

●HiS仕様

・モード切換つまみが〝非常〟の位置になっていませんか。 ——→ 〝非常〟の位置以外のモードにしてください。

・モード切換つまみが〝耕深〟又は〝水平・耕深〟の位置になっていてリヤカバーが固定状態になっていませんか。 ——→ 加圧ロッドのロックピンを適切な穴にセットしなおして、リヤカバーが自由に動くようにしてください。

・ミッションオイルは入っていますか。 ——→ オイルを規定量入れてください。

2．爪軸が回転しないときは

・ユニバーサルジョイントは正しく装着されていますか。 ——→ 正しく装着してください。(13～14頁参照)

・P.T.O変速レバーが1～3速に入っていますか。 ——→ レバーが〝中立〟の位置だと爪軸は回転しません。
確実に1～3速に入れてください。

レベラの使い方(レベラ仕様)

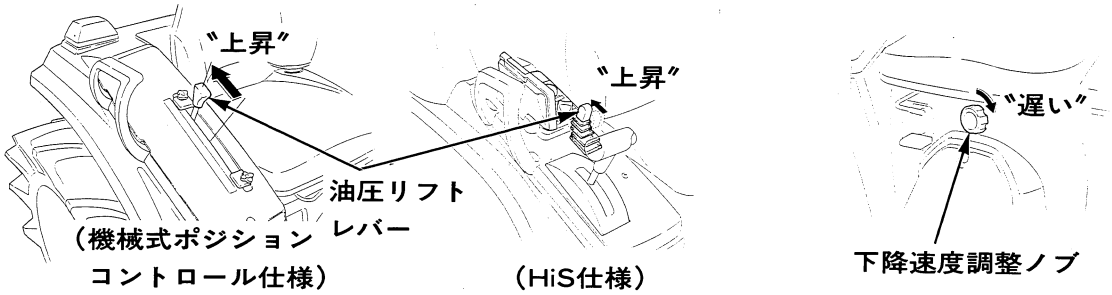
レベラの取付け、取外し

取付け

1.本機を平坦な広い場所に置き、周囲の安全を確認してください。

2.P.T.O軸変速レバー、主変速レバーが〝中立〟の位置にあることを確認し、エンジンを始動します。

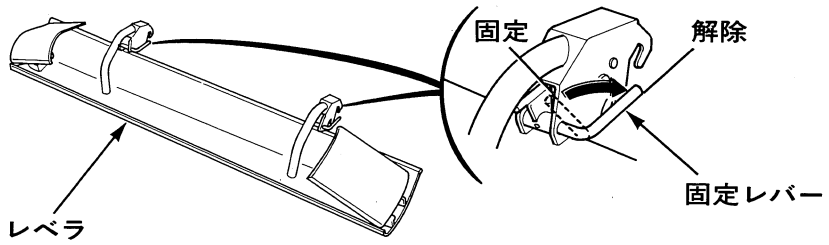
3.油圧リフトレバーを〝上昇〟の位置にしてロータリを上昇させ、下降速度調整ノブを〝遅い〟(右方向)に止るまで回し油圧をロックします。



4.油圧リフトレバーを〝下降〟の位置にしてロータリが落下しないことを確認します。

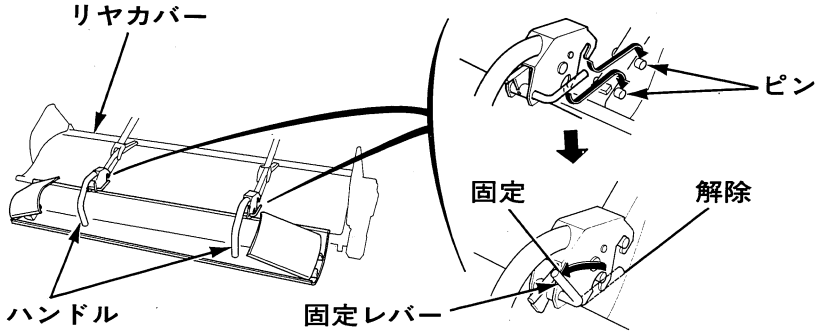
5.エンジンを停止し、キーを外してください。

6.レベラの左右の固定レバーが解除の位置になっているか確認します。



7.レベラのハンドルを持ちリヤカバーのピンにレベラのフックを合わせて、レベラをリヤカバーに取付けます。

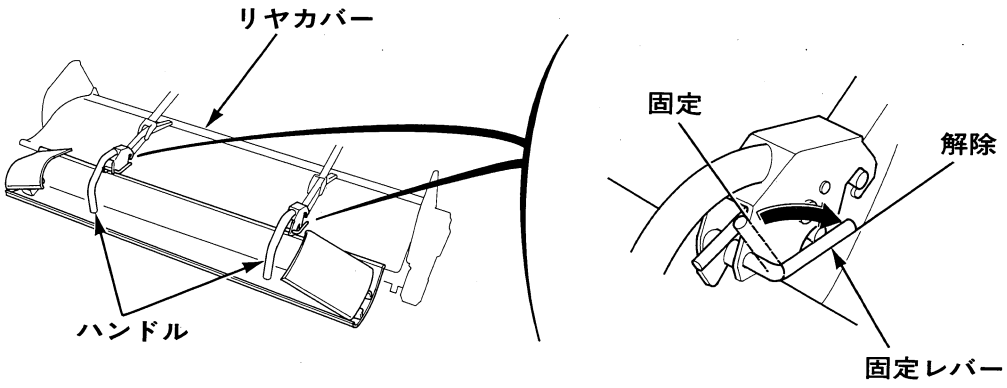
取付け後固定レバーを固定の位置にします。



取外し

1.取付け方1.から5.の手順を実施してください。

2.レベラの左右の固定レバーを解除の位置にして、レベラのハンドルを持ち、リヤカバーから取外してください。

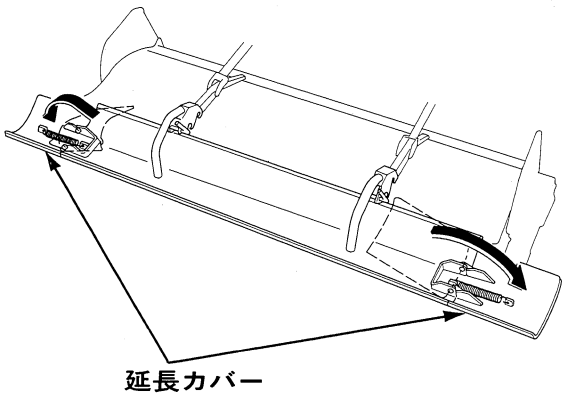


レベラの使い方

延長カバー

延長カバーを広げることにより、広い整地作業を行うことができます。

> 注意　延長カバーはほ場以外では必ず折りたたんでください。広げて使用すると車巾が広がるため、予期しない接触事故を起こすことがあります。



・レベラを使った耕うん方法(代掻、浅耕)については34～38頁の「耕うん方法」を参照してください。

主　要　諸　元

名　　称	R1400C
形　　式	RZAP
装着方式	特殊3点リンク
駆動方式	センタドライブ
耕　幅(mm)	1,400
全長(mm)	1177(機械式) 893(HiS式)
全高(mm)	1,484
全幅(mm)	1,084
重量〔整備〕(kg)	208(機械式) 194(HiS式)
耕うん爪の種類	759L(R)　各15本　なた爪 759PL(PR)　各1本　偏芯なた爪(外盛り時は各2本使用) 759PCL(PCR)　各1本　クロスカット用偏芯なた爪
爪半径(mm)	245
爪軸回転方向	正転
爪軸回転速度(rpm) P.T.O 1速 P.T.O 2速 P.T.O 3速	 183 243 404

・諸元は改良のため予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

・全長、全高はP.I.C軸を水平にした状態の寸法です。

HONDA
本田技研工業株式会社
東京都港区南青山2—1—1

30759760
00X30-759-7600

Ⓝ3009007